

活動報告会

今年度は

人文学部の専門科目「プロジェクト実習」は、大学生の就業力育成支援を目的に開講されている PBL (Project Based Learning) 科目です。地域連携、大学間ならびに高大連携の必要性が叫ばれる中、これを既に大学の正規授業の一環として実践しているプロジェクト実習の活動をご報告すると共に、活動報告会そのものを各種連携の実践の場としたいと考えております。

● 先進地実地研修 (近郊)

産学連携ツーリズムセミナー参観

● プロジェクト実習 A (総合)

カフェ × まちづくりチーム 地域とカフェを結ぶまちづくり

● プロジェクト実習 B (地域連携・地域貢献)

さとみ・あいチーム 常陸太田市里美地区の地域振興を目指す さとみ愛を拡散

● プロジェクト実習 C (国際交流・異文化理解)

E-girlsチーム 留学生×日本人学生 異文化交流の振興

● プロジェクト実習 D (PBL 型インターンシップ)

Domaine MITO チーム まちなかワインで中心市街地活性化

コミュニケーションチーム Web を通じたメールマナーの周知

こみフェスチーム 水戸市役所・市民活動団体等と協働し、こみフェスの成功を目指す

● 連携高校

水戸農業高等学校食品化学科 ピンク色のカボチャ知ってますか?里川カボチャを多くの人に知ってもらおう!

日時

平成 28 年
12 月 10 日 (土)

13:15-16:25 (12:30 受付開始)

* 12:30 ~ 13:10 に、プロジェクト実習受講全 6 チームならびに茨城県立水戸農業高等学校食品化学科生徒による活動報告を、ポスターセッション形式で実施します

会場 茨城大学人文学部 10 番教室

主催 茨城大学人文学部

共催 茨城キリスト教大学 / 常磐大学 /
茨城県立水戸農業高等学校

後援 水戸市 / 常陸太田市 / Domaine MITO 株式会社 /
泉町二丁目商店街振興組合

活動報告会に関するお問い合わせは

☎ 029-228-8115 または

E メール atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp 鈴木敦まで

担当教員より

「プロジェクト実習」は、2012 年度の初開講以来、地域の皆様ならびに連携する大学・高校の皆様から様々なご支援を戴きながら、実践と改善を積み重ねて参りました。2016 年度は 6 つのチームが成立し、自ら設定したプロジェクトに積極的に取り組んで参りました。連携 3 大学 1 高校の学生・生徒による司会の下、1 年間の取り組みの成果をご報告致します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

茨城大学 人文学部教授 鈴木 敦

活動報告会

0	ポスターセッション プロジェクト実習受講チーム・茨城県立水戸農業高等学校食品化学科生徒	12:30-13:10
1	開会挨拶 田中 裕 (人文学部副学部長・評議員)	13:15-13:20
2	趣旨説明 鈴木 敦 (プロジェクト実習担当教員)	13:20-13:35
3	先進地実地研修 (近郊) 報告 小野瀬莉央 (茨城大学3年)・佐藤宇輝 (茨城大学2年)	13:35-13:45
4	プロジェクト実習活動報告第一部 (1) カフェ × まちづくりチーム (2) さとみ・あいチーム (3) E-girls チーム	13:45-14:35
5	休憩	14:35-14:45
6	プロジェクト実習活動報告第二部 (4) Domaine MITO チーム (5) コミュニケーションチーム (6) こみフェスチーム	14:45-15:35
7	水戸農業高等学校活動報告 ・新堀俊博 (食品化学科教諭) ・食品化学科生徒	15:35-16:00
8	来賓講評 金原 榮 (金原PR企画研究所代表)	16:00-16:15
9	2017年度プロジェクト実習のご紹介 神田大吾 (プロジェクト実習担当教員)	16:15-16:20
10	総括と閉会挨拶 佐川泰弘 佐川泰弘 (人文学部学部長)	16:20-16:25

司会：①～③ 塚本莉沙 (茨城大学3年)・高場菜央 (茨城キリスト教大学2年)
④ 高山直人 (茨城大学2年)・浅野恵萌 (県立水戸農業高等学校3年)
⑥ 岩本有彩 (茨城大学2年)・石川 蓮 (県立水戸農業高等学校3年)
⑦～⑩ 森本真由 (茨城大学2年)・榊田桃子 (常磐大学2年)



日時 平成28年
12月10日(土)
13:15-16:25
(12:30 受付開始)

会場 茨城大学人文学部 10 番教室
水戸キャンパス
JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗場
から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」に
乗車。「茨大前営業所」で下車。
バス乗車時間は約30分。
茨城交通HP ▶ <http://www.ibako.co.jp/>

お問い合わせは _____
☎ 029-228-8115 または
Eメール atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp
茨城大学 鈴木敦まで

平成28年度
プロジェクト実習
授業紹介と報告会趣旨説明

プロジェクト実習担当教員 鈴木 敦
Atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp

1

プロジェクト実習
開講の背景

文部科学省(2010~2014)
「大学生の就業力育成支援事業」



事業の中核授業として
2012年度より開講

2

PBL授業・プロジェクト実習
PBL授業 とは

Project Based Learning
(課題解決型学習)

アクティブ・ラーニングの一種
(負荷・効果とも大)

3

プロジェクト実習
構造

授業科目名	プロジェクト実習 A	プロジェクト実習 B	プロジェクト実習 C	プロジェクト実習 D
テーマ	総合	地域連携 地域貢献	国際交流 異文化理解	PBL型 インターンシップ
段階				
対象 学年				
能力強化 プログラム	2-4年 プロジェクト 実習A スタッフ編	プロジェクト 実習B スタッフ編	プロジェクト 実習C スタッフ編	プロジェクト 実習D スタッフ編
能力実践 プログラム	3-4年 プロジェクト 実習A リーダー編	プロジェクト 実習B リーダー編	プロジェクト 実習C リーダー編	プロジェクト 実習D リーダー編
	4年 プロジェクト 実習A メンター編	プロジェクト 実習B メンター編	プロジェクト 実習C メンター編	プロジェクト 実習D メンター編

4

プロジェクト実習
別の角度から見れば

アクティブ・ラーニングの実践
地域連携・高大連携・異文化理解活動

就業力育成の結果としての、各種連携
各種連携の結果としての、就業力育成

5

プロジェクト実習
目的

プロジェクトへの取り組みを通じた

実践的・多面的 **学び**

6

プロジェクト実習
教員・課題提案者のスタンス

~~指導者?~~

伴走者

7

プロジェクト実習
概要(1) 前期

- (1)プロジェクト課題提案
- (2)課題選択・チーム結成
- (3)チーム活動開始
- (4)履修目的の明確化
- (5)各種スキルの学習
- (6)特別講演(金原榮先生)
- (7)PJ構想報告会
- (8)PJ中間報告会

お手元の資料を
ご覧下さい

8

PJ課題から具体的PJへ

PJ課題:水戸市の公共交通活性化

絞り込み

列車・バス・タクシー・・・バス
高速バス・市内バス・観光バス・・・市内バス
茨城交通バス・関東鉄道バス・・・茨城交通
広報・料金・行政・使いやすさ・・・使いやすさ
路線・本数・車両・停留所・時刻表・時刻表

具体的PJ:茨城交通・市内バスの
時刻表改善案の提言

9

プロジェクト実習
概要(2) 後期

- (9) チーム活動継続
- (10) 先進地実地研修(近郊・遠郊)
- (11)PJ中間報告会
- (12)チーム別・ピーク活動
- (13)活動報告会
- (14)リフレクション
- (15)報告書作成

お手元の資料を
ご覧下さい

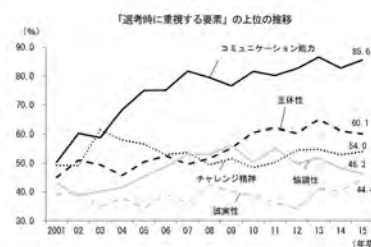
10

プロジェクト実習
養成される(筈の)能力

- (1)未知の世界に踏み出す**チャレンジ精神**
- (2)自ら考えて行動する**主体性**
- (3)自らの役割をきちんと果たす**誠実性**
- (4)チームの一員としての**協調性**
- (5)学内・学外のような様々な立場の方々と、しっかり意思疎通できる**コミュニケーション能力**

11

ちなみに・・・
経団連新卒採用調査2015



- 1位:コミュニケーション能力
* 12年連続1位
- 2位:主体性
- 3位:チャレンジ精神
- 4位:協調性
- 5位:誠実性

12

プロジェクト実習
活動報告会開催の趣旨

- (1)活動の総括
- (2)ご支援下さった皆様へのご報告と御礼
- (3)対学内・対学外広報

13

プロジェクト実習
活動報告会開催の趣旨

(4)各年度の(隠れ)テーマ

- 2012年度: PJ実習、3大学連携で始動!
- 2013年度: 受講生のコンピテンシー向上
- 2014年度: 学外からのご支援の拡大
- 2015年度: 授業改善の取り組み

14

2016年度は・・・

高大連携

午前の部: ミニ・キャンパスツアー+学食体験
10校・71名

午後の部: 水戸農業高等学校食品化学科3年生
ポスターセッション参加
過去3年間の活動報告と司会

15

最後に、ここだけの話ですが・・・ f(^_^);

PJ実習参加の水農食化生が
茨城キリスト教大学文学部

合格!

水農食品化学科  茨キリ文学部

 単位互換

茨大プロジェクト実習

16

では・・・

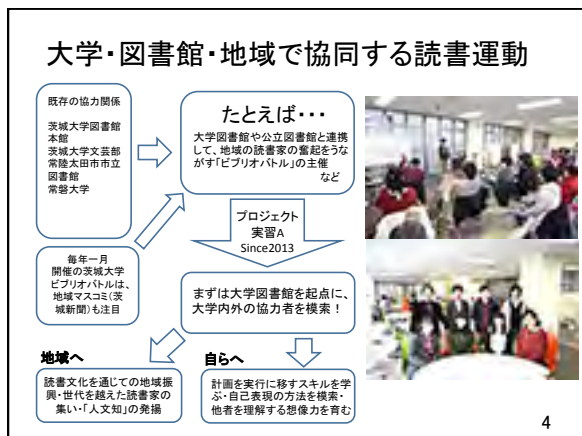
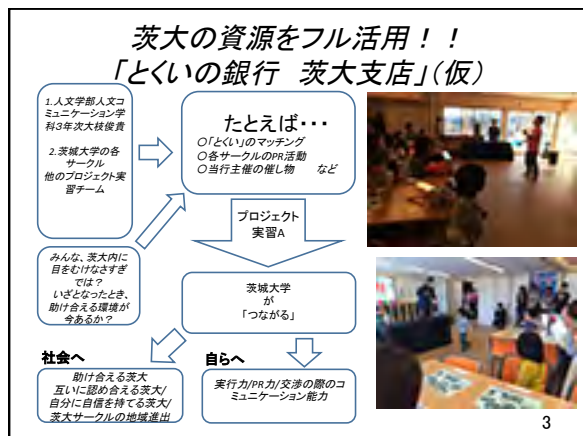
スタート!

17

ご清聴 感謝申し上げます

18

資料1：プロジェクト課題提案



設立したて『ワイン造り』株式会社づくりPJ

○お題提供者
Domaine MITO
株式会社

○活動支援者
いばらきワイン産業連絡協議会、酒類業界の習得、茨城県、水戸市、JA水戸、水戸商工会議所、国税庁、農水省、経産省、SMBC、MUFG

昨年10月に設立した水戸のまちなかでワインを造る株式会社。まちなかワインナリ上げ、ベンチャー企業、商店街活性化、様々な経験アリ。

地域へ
産学連携、産官学連携のモデル化
未来の企業家、起業家育成

自らへ
企業経営/起業ノウハウ/実行力/ネゴシエーション力/発想力/お酒の知識も

たとえば・・・
○ワイナリーPR企画立案・実行
○ワイナリーへのニーズ調査
○ベンチャーならではの経営企画
○地域貢献、コミュニティ構築

プロジェクト
実習D
NEW!

1 市長表敬
→子供向け醸造体験
1 収穫体験会

1 泉町会館(水戸市泉町二丁目)
県内各葡萄産地
東京都内

7

○お題提供者
水戸市役所
市民生活課

○活動支援者
こみっとフェスティバル実行委員会(NPO、ボランティア団体等で組織する実行委員会)

「実践型インターンシップ」が体験できます！
5日間程度の職場体験付き！

水戸市内で活動するNPO・ボランティア団体などの市民活動団体が、活動展示・発表のほか、相談・体験ができるイベントです！！

プロジェクト
実習D
Since2014

水戸市内
(各地域での市民活動に参加)

地域へ
若い感性や斬新な発想による体験の取り入れ、地域の市民活動に活力をもたらす

自らへ
各地域に根付いた市民活動の体験から、地域社会の運営における基本的な知識・経験を得る

8

水戸の公共交通を、茨大生が変える

○お題提供者
水戸市役所
交通政策課

○活動支援者
水戸市都市交通連絡会議(交通事業者、市民、関係行政機関等で組織する協議会)、市民団体など

「実践型インターンシップ」が体験できます！
5日間程度の職場体験付き！

「あそこに行くのに、どうやって行くのか」—私たちは日々そんなことを考えて生活しています。自分たちの学生生活を豊かにするために、自分のアタマで考え、水戸の未来を創りましょう。

プロジェクト
実習D
Since2014

水戸市
または水戸市を中心とする
県央地域

地域へ
自分たちが住む世界を、実際に変えていくための能動的なアクション

自らへ
水戸の未来を創造するために自ら「生きた」知識を得ること

9

身近なコミュニケーショントラブルの低減に向けて

【既存の協力関係】
(1)茨城キリスト教大学
(2)NTTコミュニケーションズ(株)
※名称「NTT Com」
(3)NTT Comが認定するICT情報リテラシー教育「インターネットがムスタブ・com Master」の協力会社

【NTT Comの期待】
(1)ICTコミュニケーションの身近な利用の確認
アンケート等の検討と実施
—SNS利用/就職活動でのネット利用等で体験したリアル
—身の回りで起こったトラブル
(2)結果の分析、対応策検討
—ノウハウ等の活用
(3)対策の具体化
対策のとりまとめ
Webや学内での告知活動等

【新たな協力関係の構築】
(1)NTTグループ内企業
—NTTリゾナド(インターネットホール、サービス提供)
—NTT研究所(通信の基礎技術を研究している機関)
—NTT-3e など
(2)IT系教育サービス会社

プロジェクト
実習D
Since2015

【主な活動場所】
(1)調査活動:水戸市内(大学等)
(2)セミナー&企業見学:
東京新橋店(NTT Comのオフィス)
※NTTグループ他施設での活動も検討

社会へ
(1)7/20以外で検討した内容を、インターネット検定公式サイトに掲載・公開することで、当該活動の内容を社会(特に学生等)に向けて発信する
(2)インターネット検定「com Master」のノウハウ等に当該トピックを反映する

自らへ
(1)自身のIT活用において、コミュニケーション(7/20以外)を理解したうえで対応法を考え実践する
(2)Webを活用した簡易アンケートを設計・実施する
(3)7/20外をとおして、企業における「情報の取り扱い」、「就業検定における意思決定方法」等を経験する

10

「潤沼」を深化させるのは君だ！

○お題提供者
(株)JTB関東
法人営業水戸支店

○既存の協力関係
茨城町役場
鉾田市役所
大洗町役場
茨城県庁

新たな協力可能性の構築
・潤沼ラムサール条約推進協議会
・茨城町役場おこし協力隊？
・ひらうら田舎暮らし推進協議会 など

たとえば・・・
・特産品(ししみ等)のPR・商品開発
・良治の宿泊者増加にむけて・・・
・インバウンド観光プラン

プロジェクト
実習D
NEW!

ラムサール条約湿地に登録された「潤沼」の認知度を上げる！

地域へ
6次産業化
交流人口増加

自らへ
・潤沼を知る
・地域の課題を知り、解決策を考える
・インターネットにより実社会との関わりを持つ

11

2016年度・成立プロジェクト スライドNo. & 所属カテゴリ

2:プロジェクト実習A
5:プロジェクト実習B
6:プロジェクト実習C
(茨城キリスト教大学主体で運営)
7:プロジェクト実習D
8:プロジェクト実習D(1を組み込み)
10:プロジェクト実習D

12

資料2：プロジェクト実習の勘所（2016年度ガイダンス資料より）

PBL授業 プロジェクト実習の特色

1. 茨城大学就業力育成プログラムの中核
2. プロジェクト+追加アイテム
3. 2年生～4年生向け
4. 他大学からの受講、大歓迎
→大学・学部・学年の異なるメンバーで
チーム(5人～9人)活動
5. 通年2単位
→「単位集め」には不向き
→「外」との繋がり=責任感が必要

1

プロジェクトの 提案・選択は自由！

1. 昨年度の履修者が提案した
継続プロジェクトに参加する
2. 学外から提案された
プロジェクトに参加する
3. 自分でやりたいプロジェクトを提案して
メンバー（=自分を含めて最低5人）を
集める

どれでもOK！

2

活動予算について

1. 1チーム当たりMAX4万円を配分
→「使い切る」必要なし。節約に努めて下さい
→用途によっては制限あり。
2. 不足分は、チームごとに自前で調達
→「学内・学外の、この種の活動に対する
補助金に応募する」
「連携相手と交渉する」
等々
→「計画遂行のための予算調達」自体が
根力育成のトレーニング！

3

参加姿勢の考え方(1)

「自分が動かなければ回らない」

- ・ チームは5人以上9人以下
- ・ 誰もが何らかの役割分担
- ・ 「自分の頭で考える」「報・連・相」を
怠れば、チームは勿論
「学外の協力者の皆さん」に迷惑

**「学生だから」では許されない
=社会人を疑似体験**

4

参加姿勢の考え方(2)

「やむを得ない欠席は必ず生じる」

- ・ 単位付与の規定時間を自ずと越える活動計画
→**正当な理由**があり、チーム・学外協力者・
担当教員に**きちんと報告**した上での
＜やむを得ない欠席＞を一定程度保証

「欠席は罪」

**将来、必要な休暇も取りながら、支障なく
職務をこなしていくトレーニング**

5

プロジェクト実習の勘所

だから！

1. プロジェクト貫徹から何を学ぶの？
「自分にとっての学び」を、明確に設定！
2. PJ実習に取り組む自分の姿勢・思考・
行動は、自ら設定した「学び」の達成に
叶ったものか？
常に検討→「明日の活動」に反映
3. 自分で学ぶ・周りから「盗む」

6

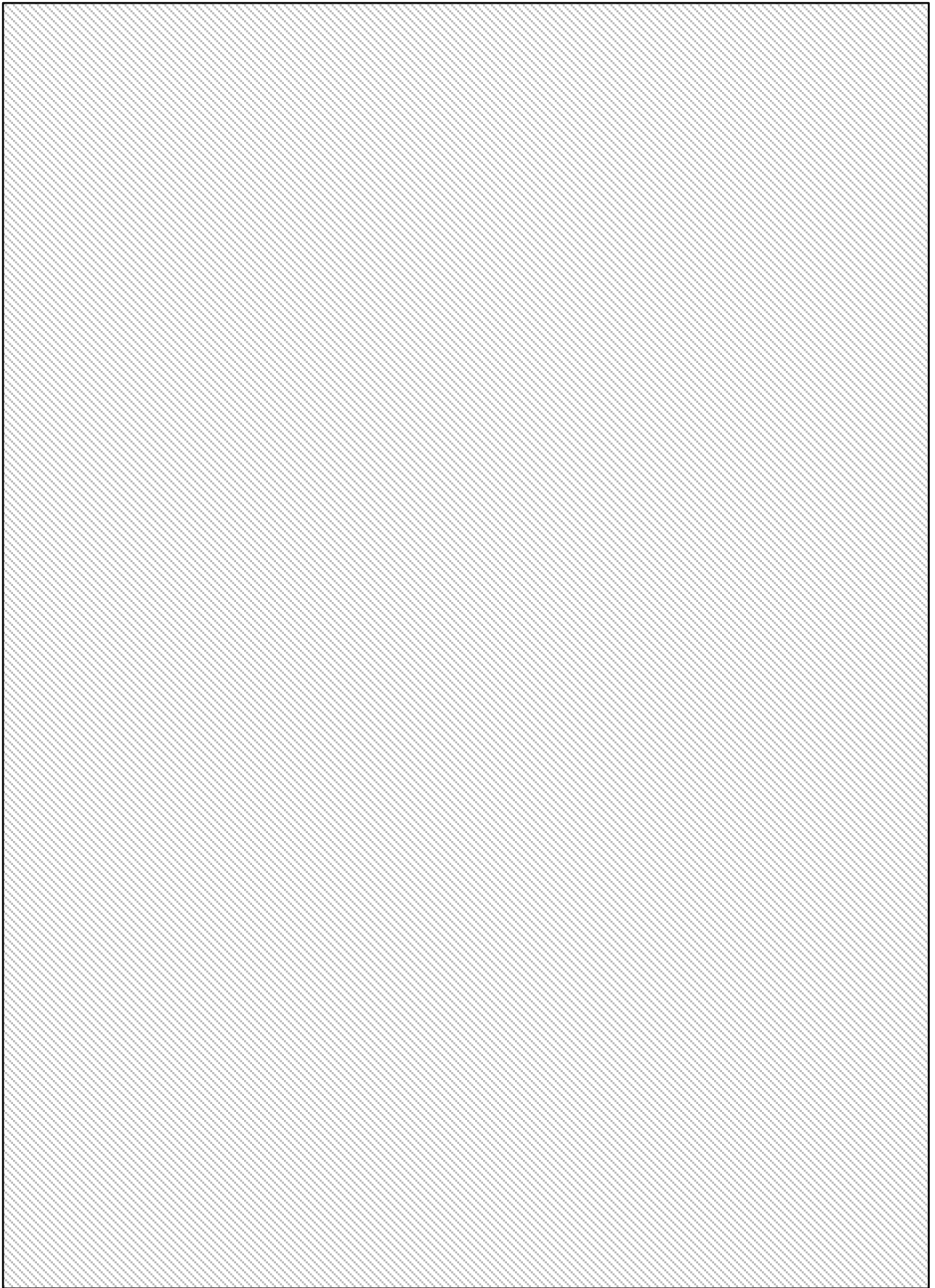


図 14: マインドマップ簡易マニュアル (1/4縮小)

根力の構成要素		4	3	2	1	
1 基礎的素養	読み	文章読解能力 論理的思考力 分析力	難解で長大な文章でも、論旨を的確に捉えることができる。筆者の主張を論理的に理解・分析し、自らの見解を組み立てることができる	比較的平易で短い文章であれば、論旨を的確に捉えることができる。筆者の主張を理解・分析し、自らの見解を組み立てることができる	比較的平易で短い文章であれば、ほぼ最後まで読み通し、筆者の主張をある程度まで理解・分析することができる	比較的平易で短い文章であっても、最後まで読み通すことができない。たとえ読み通せても、筆者の主張を理解・分析することができない
	書き	文章作成能力 論理的思考力 分析力	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料をルールを踏まえて提示しつつ、4,000字以上の論旨が明確な文章にまとめることができる	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料をある程度ルールを踏まえて提示できる。4,000字以上の文章を書いた経験はない	特定のテーマについて、短い文章を書くことができる。論理的な思考・分析や、必要な資料をルールを踏まえて提示することには難がある	「つぶやき」に短い文章を書くことはできるが、論理的な思考や分析を提示することはできない
	ソロバン	基本的なIT能力	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、初心者に分かりやすく説明することができる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、基本的にマニュアル無しで自力で対応できる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、マニュアルを参照しながら自力で対応できる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、自力では対応できない
	話す	説明能力 プレゼンテーション能力 コミュニケーション能力	公の場で、相手の理解度や受け止め方を読み取りながら、説得力のある説明・魅力的なプレゼンができる。質問や批判にコミュニケーションの機会を受け止めることができる	公の場で、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションに難があり、質問や批判には思わず身構える	フランクな場では、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションもとれ、質問にも平穏心で答えられる	親しい人々との気楽な会話・コミュニケーションはできるが、第三者への論理的な説明やプレゼンにはできない
2 社会生活力	生活力	自立した生活を実践できる力	起床・食事・登校・各種活動から就寝までの健康的で安定したペースで送ることができる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができる	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースが乱れがちである。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなせない(うっかり忘れる)ことがある	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースがしばしば乱れる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなせないことが多い	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースで安定したペースで送ることができない。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができない
	人間関係構築力	生活を送る上で必要な人間関係を円滑にするための力	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、常に遵守することができる	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、時に守ることができる	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、しばしば遵守できる	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、遵守できない
	情報収集力	生活を送る上で必要な情報のありかや、入手方法を把握する力	書籍を含む各種メディアや人脈等を幅広く有効に活用して、情報の入手方法を的確に把握し、必要な情報を確実に入手できる	情報のありかも情報を入力するための新たなルートの開拓方法も把握している。しかし各種メディアの活用や人脈等が不十分で確実性に難がある	生活を送る上で必要な情報のありかはある程度把握している。しかし情報を入力するための新たなルートを開拓する方法は分からない	生活を送る上で必要な情報のありかが分からない。どうすれば情報を入力できるかも分からない
	主体性	物事に進んで取り組む力	物事を自分の問題として受け止め、指示や命令・切迫した必要などが無くても、自らの意見・計画に基づき、自主的に判断して取り組むことができる	明確な義務を伴う事案については、責任感から率先して取り組むことができる	自らの利害や、興味関心が強い事柄については、自主的に取り組むことができる	指示や命令・切迫した必要があっても、できるだけ他人の後に付いていくことを考え、積極的に取り組むことができない
3 行動力	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	立場の異なる人や初対面の人にも、課題について説得力のある説明をし、協力を促すことができる。また、自分の意見に固執せず全体を纏めることができる	学生同士など、立場の近い人に対しては、さほど親しくなくとも課題を分かりやすく説明し、協力を促すことができる。また他のメンバーへの気配りもできる	親しい友人に対しては、課題について説明し、協力を促すことができる	第三者に対して課題を説明し、協力を促すことができない。或いは、協力は促せるが発言の独り占め・攻撃的言動等で協力者の意欲を阻害させがちである
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	明確な目的を設定し、自分の能力や客観的な諸条件を的確に踏まえた計画を立て、迅速かつ粘り強く行動していくことができる	目的を設定し迅速に行動していくことができるが、計画性に難があり、迷走することもある	目的を設定し、行動して行くことができるが、迅速さと粘り強さに難があり、所期の目的を達成できないことも多い	目的を設定できない、あるいは設定してもその達成に向けて確実に行動することができない
	対応力	物事に流されず疑問に思い主体的に対応する力	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、客観性や自らの意見に照らして疑問がある事柄には、関係情報を検討・確認した上で主体的に対応する	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、自分の意見に合わないものであれば反対の意思表示をすることができる	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見に疑問を感じることもあるが、敢えて主張することはしない	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見には、疑問を抱かず従ってしまいがちである
	課題発見能力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	現状を分析し、背景や原因を追究した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握し、明確に言語化して第三者にも提示できる	現状を分析し、背景や原因を追究した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握できるが、明確に言語化することができない	現状を分析し、背景や原因を追究することはできるが、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握することができない	現状を、漠然とした諸事象の集合としてしか認識できず、分析や課題発見ができない
4 思考力	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	解決の為にプロセスを複数用意でき、最善の物を選んで解決までの具体的手順・作業内容・時間配分等を、チーム活動のレベルで構築できる	解決の為にプロセスを立案し、解決までの具体的手順・作業内容・時間配分等を、個人活動のレベルで構築できる	解決の為にプロセスを立案し、解決までの道筋を構想できる	解決の為にプロセスを立案することができない。或いは、立案はできるが解決までの道筋を構想できない
	想像力	課題が抱える影響課題解決方法の影響等、ものごとをイメージする力	課題自体や解決に向けた取り組みがもたらす影響といった「目に見えない物」について明確なイメージを持ち、その得失を念頭的に確かな対応ができる	「目に見えない物」をイメージでき、その得失を念頭に対応を考えるが、イメージの多様性と明確さに難があり、的確な対応を掲げない	「目に見えない物」をイメージし、その得失を念頭に対応を考える必要性は認識しているが、明確なイメージを掲げない	課題自体や解決に向けた取り組みの影響といった「目に見えない物」についてイメージすることができない。またイメージする必要性を自覚しない
	課題解決能力	課題の本質を捉え、適切な解決に導く力	課題の本質を捉え、解決のための勘所を明確にした上で、具体的な取り組みに必要な条件を整えて確実に解決に導くことができる	課題の本質を捉えることができ、解決のための勘所を明確にできるが、具体的な取り組みに必要な諸条件の整備に難があり、失敗も多い	情報を客観的に分析して課題の本質を捉えることができるが、解決のための勘所を捉えることができず、適切な解決に導くことができない	周辺情報や個人的利害・感情等に囚われて、課題の本質を捉えることができず、課題解決に取り組めない
	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	自分の意見を、相手の立場や前提となる知識・文化的背景の違い等も視野に入れて整理し、分かりやすく説得力のある内容・話法で伝えることができる	自分の意見を論理的に整理し、知識・文化の共有が乏しい相手に対しても、明確な内容・話法で伝えることができる	自分の意見を、家族や友人等、基盤となる知識・文化を共有する相手に対しては、その共通性に依拠しつつ分かりやすい内容・話法で伝えることができる	自分の意見を整理し、分かりやすい内容・話法で伝えることができない
5 チームワーキング能力	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	話者が話しやすい環境を作り、適切なタイミング・内容の質問等で話者の意図を更に引き出しつつ、最後まで集中力を切らさずに聴くことができる	話者が話しやすい環境を作り、最後まで集中力を持って聴くことで、話の筋を正確に把握できる	一見最後まできちんと聴いているが、集中力が続かず、話の筋を正確に把握できない	目を逸らしたり話の腰を折ったりして、話者にとって話しにくい条件を作ったり、注意力を切らして最後まできちんと聴くことができない
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	相手の意見・立場になって考え、「違う」ことを前提に、相手を理解することができる。自分の意見に固執せずアドバイスを進んで受け入れられる	自分と異なる意見・立場があることを認識でき、アドバイスも素直に受け入れることができる	自分と異なる意見・立場への違和感が強く、アドバイスを受け入れることに抵抗感が強い	自分と異なる意見・立場が存在することを許容できない。アドバイスを攻撃と受け止め、受け入れることができない
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	組織における自分の責務を正確に認識し、自分の意思や言動が相手にどう影響するかを考慮しつつ、組織全体を視野に臨機応変な対応ができる	組織における自分の責務を正確に認識し、組織全体を視野に入れて行動しているが、相手への影響を気にしすぎて臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識はあるが、自分の意思や言動が相手にどう影響するかという意識に乏しく、臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識が無く、物事を自分中心にしか考えられないため、臨機応変な対応ができない
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	法令や規則に拘束されず、チーム内での取り決め等についても、決められたことは従うが、公平公正等、本人の倫理観に拠る事柄への意識は高いと努める	法令・規則・チーム内での取り決め等、明確に決められたことには従うが、公平公正等、本人の倫理観に拠る事柄への意識は高いとは言えない	罰則を伴う法令や規則等は遵守するが、チーム内の取り決め等は軽視する。公平公正への意識が低く、往々にして我田引水に陥る	時間厳守等、社会常識レベルの取り決めも遵守できない。公平公正への意識が低く、しばしば我田引水に陥る
ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	ストレスを感じても成長の機会と前向きに捉え、平穏で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。また、気晴らしの方法を持っている	ストレスを感じても平穏心で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。しかし前向きに捉えたり気晴らしをすることはできず、不満を蓄積させる	ストレスを感じても投げ出さず、概ね適切に判断し課題を遂行できる。しかし気晴らしの方法もなく、最終イライラして攻撃的になる	ストレスを感じると、適切な判断や課題遂行ができなくなる。気晴らしの方法もないため、最終イライラして攻撃的になる	

図 15: 根力の構成要素ルーブリック (1/2縮小)

(1) 根力の構成要素		(6) 比重	(3) 卒業時の理想像	(5) 2015年度末に できればここまで達成したい	(4) 2015年度末に ここまででは達成したい	(2) 現状

*** 2015年度のプロジェクト実習の履修を始めるに当たり、現状と年度末の達成目標を文字にして確認しておきましょう**

(1)の水色部分に、根力の構成要素ルーブリックで選んだ「プロジェクト実習履修を通じて強化したい項目」をコピーして下さい
(2)の黄色部分に、自分の現状を記して下さい。**根力の構成要素ルーブリックの文言を踏まえつつ、自分の言葉で記して下さい**
(3)の黄色部分に、「2015年度末での実現可能性」とは一切関係なく、「卒業時に、こうなったら理想・こうなることが目標」という姿を記して下さい
(4)の黄色部分に、「2015年度末には、ここまででは実現したい」という事柄を記して下さい(ハードルが高くなりすぎないように設定するのがコツです)
(5)の黄色部分に、「2015年度末に、できればここまでで実現したい」という事柄を記して下さい(ちょっと大変だけれど、頑張れば何とか・・・というレベルを設定するのがコツです)
(6)の桃色部分に、それぞれの項目にかける比重を10刻みで全体が100になるように記して下さい(例えば、上から順に「60」「30」「10」という具合にメリハリをつけるのがコツです)

*** 黄緑部分は、年度末のリフレクションで使用します。当面、空欄にしておいて下さい**

図 16: 個人の達成目標ルーブリック (1/2縮小)

ブレインストーミング (BS) と KJ 法の心得

1 : BS はアイデア出し。

難しいことは考えず、とにかく質より量で発言する。

大脳はお休みさせて本能と感性の赴くままに「垂れ流す！」

そのために

(1)質より量：一言でも多く発言する

(2)自由奔放：他人の目を気にしない。変な見栄や遠慮は NG

(3)尻馬推奨：他人の意見を踏まえて「さらにこんなことも・・・」というアイデアを出す

(3)批判厳禁：BS はひたすらアイデアを出す場面。議論の場ではない。批判は(1)~(3)の障害となり、BS 全体の意義を損なうので厳禁！！

2 : KJ 法は構想の取りまとめ。BS とは打って変わって大脳全開！

第1ステップ：カードをばらばらに広げる。

第2ステップ：関連性のあるカードを重ね、見出をつける。

第3ステップ：第2ステップで作った小グループの見出を眺めながら、親近性のあるグループをより大きなグループへとまとめていく。

第4ステップ：グループ間に論理的な関連性ができるよう大グループのカードの束を並べ替える。→配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでしゃべれるようにする、のがコツ。

第5ステップ：大グループごとに、中身を検討。

第6ステップ：完成形を記録 (写真等)

第7ステップ：記録を見ながら、すべてのグループのうちどれが重要／やりたいと思うかを議論。(上位3〜5件を選出する投票も有効) 合意形成へ。

KJ 法の手順

(川喜田二郎『発想法』中公新書、1967年；『続・発想法』中公新書、1970年)

第1ステップ：
まず、BS等の手法で作られたたくさんカードをばらばらに広げてみます。

第2ステップ：
カードに記載された「1行見出し」を眺めながら、関連性のあるカードを重ねていきます。最後に、それぞれのグループの内容を簡潔に表す見出し＝「表札」をつけて上に載せます。その上で、それぞれのグループのカードを輪ゴムで束ねます。
*第2ステップの作業では、以下の点に注意して下さい。
・1グループのカードは最初は枚数程度。はじめから大きくまとめようとしない。
・1枚のまま残る「一匹オオカミ」があってもかまわない。無理に他のグループと一緒にしない。

第3ステップ：
第2ステップで作った小グループの「表札」を眺めながら、互いに親近性のあるグループを中グループにまとめます。この作業を何度くりかえし、10近くの大グループにまとまったらグループ化作業は終了です。
大グループにも表札をつけますが、グループ分けがすべて終わってからというのではなく、カード全体の3分の2程度がまとまってきたところで、グループ分け作業と並行して表札作りを進めて下さい。

第4ステップ：
ここからいよいよ論理的整理の段階に入ります。グループ間に論理的な関連性ができるよう大グループのカードの束を並べ替えます。「空間配置」と呼びます。配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでしゃべれるようにする、というのがコツです。

第5ステップ：
空間配置ができたら、カード束の間隔を広げ、それぞれ1段下の段階までくはくします。その上で、もとのグループの範囲内で、ただし隣接する大グループ(およびその1段下の束)との親近性に注意しながら中グループレベルの空間配置を行います。これでカードの作業は終了です。

第6ステップ：
カードで作った空間配置を別の紙に写し取るのが次のステップです。その際、上の図のように、グループ間の関連の内容を示す記号を使って、空間配置の論理連絡が分かるようにします。たとえば次のような記号を使います。

第7ステップ：
いよいよ最後のステップです。図を見ながら、すべてのグループのうちどれが重要と思うか、各自最高5点から1点の幅で点数をつけます(6番目以降は点数をつけない)。総得点が最も高い5つのグループをゼミでのグループ研究のテーマとします。研究にあたっては、KJ法によってえられた中テーマ等が主要な研究項目となるでしょうし、また図解の「因果連鎖」も重要な指針を与えてくれるでしょう。

図 19: ブレインストーミングと KJ 法 (1/4縮小)

図 17: 事例シナリオと課題(学生用)

事例シナリオ C

「学外者を巻き込んだ国際交流イベント」

* Z さん：水戸第六中学校長。59 歳。自校の教育の国際化に熱心。大学生・留学生と中学生の交流の場を設けて、中学生を「海外」「異文化」に目覚めさせたいと強く思っているが、現時点では「願望」レベルに留まっており、独自の「情報収集」「分析」「課題設定」「企画」はない。

Z：中学生は海外といっても実感がありません。貴学の留学生や留学経験者と交流の場を作って、我が校の教育の国際化を進めたい。いいプランを考えてください。

A：海外とか興味ね〜。言葉通じねえとかあったるいんだよな〜。

B：留学生や留学経験者との交流で疑似海外体験か。よくあるパターンだな。

C：ビンゴとかあ〜クイズとかあ〜・・・いろんな国のお料理を作れないかな？かわいい民族衣装、着てみた〜い♥。

D：よし、じゃあさっそく会場を押さえよう！

A：だりい〜。ガキンチョ集めてチーパッパなんて、やってらんね〜。

C：かわいい民族衣装でえ〜、留学生のお国自慢料理を出してもらったらあ〜、きっと女の子は大喜びだよお〜。夕方になったらライトアップしてえ〜、お国別にパレードやってえ〜♥

A：おーい、Cが一人で TDL 行っちゃってるぜえ〜。

B：そもそもここで言う「国際化」って何なんだ？経産省じゃないんだから WASP 標準にすり寄ることじゃないよな。それに茨大の留学生は中・韓・マレーシアが御三家だし・・・

D：早速ググろう！え〜と、まずは「中学」「留学生」「国際化」っとお！

A：そんな検索じゃ、欲しい情報なんて出てこねえんじゃね？俺やるわあ。かしてみ。

C：じゃあ私、留学生の友達を誘ってくるね〜♥

B：いや、そうじゃなくて！第一に、この催しでどういう成果が上がれば Z さんの課題に応えられたことになるかを考えなきゃ。それと留学生に協力してもらう以上、彼らにもメリットがなくちゃいけないし・・・そうだ、Z さんはどういう流れをお望みなんですか？

Z：え？・・・いや、その、留学生と交流すれば国際化が進むだろうなあと・・・

B：交流会の前と後に、中学側ではどんな授業をお考えですか？

Z：いやあ・・・先生方も忙しいから・・・

A：調べたの、ここ置いとくぜー。俺、バイトあつから先帰るわあー。

D：こらっ、待てえ！みんなで協力して取り組めって言われてっだろ！

A：バ〜イ

B：へー、短時間でよくここまで調べたな。まずはこれで情報共有から始めようか？

D：よし、B。お前リーダーやれ。ほら、あるだろ。プレーンストーブとか何とか言うの。

B：ブレインストーミング！でも僕は知的分析者だ。リーダーなんて勘弁してくれ。

事例シナリオ課題

- (1) 課題1・3・4は、課題文の直下に記入して下さい。必要に応じて行を追加して下さい。
- (2) 課題3は、シナリオに赤字で直接書き加えて下さい。
- (3) 5/28・13:00までに、レナンディ「課題02 事例シナリオ解答」に提出して下さい。
- (4) 5/29の授業に、プリントアウトを一部持参して下さい(「文字カウントの仕方」部分は不要)。

課題1

シナリオA～Dの中から、自分の所属カテゴリに相当するものを選び、登場人物A・B・C・Dの、それぞれのキャラクター(「良い所」と「悪い所」の両方)を、下記の例を参考に<ごく簡潔に>記して下さい。

<例>

X: 良い所: 目配り・気配りが得意で名サポーター。

悪い所: 引っ込み思案で積極性に欠ける。

課題2

あなたのキャラクターを念頭に「登場人物 E」を設定し、「自分だったら、多分無意識にこういう行動・言動をとるだろう」(＝現状の自己分析)という内容を、このシナリオに3～4箇所、書き加えて下さい。

→選択したシナリオの当該箇所に空白行を設け、赤字で書き込んで下さい。

→シナリオには、予め1頁当たり4～6行の余裕が設けてあります。文言を工夫して、できるだけ1頁に収まるように記して下さい。

課題3

あなたがこのチームの第5のメンバーで、かつリーダーに選出され(てしまっ)たとします。「学外者を巻き込んだ国際交流イベント」という課題に、このチームを率いてどのように取り組んで行きますか?

→この下に、黒字で記入して下さい。長さは自由です。

課題4

あなたが今後このチームの有力な戦力として課題に取り組んでいくためには、どういう風に行動していくべきか(＝行動目標)を、先に規定した「この授業で高めたい根力(ねぢから)構成要素」に即して、またあなたがチーム内で実際に担う役割(リーダー・サブリーダー・書記・会計・渉外・・・等)を踏まえて、400字程度にまとめて下さい。

→この下に、黒字で記入して下さい。文字カウントの方法については、最終頁を参照して下さい。

事例シナリオ学習の運用と教材の作成

事例シナリオを用いた授業は、プロジェクト実習A～Dの履修学生が一堂に会し、各自の所属するA～Dのカテゴリ用の「事例シナリオ」を読んで、「事例シナリオ課題1～4」(以下に収載)に取り組み、最終的に「履修者全員としての答案」を作成するという内容です。

具体的な授業は、以下の手順で進めます。

- (1) 教員側は、プロジェクト実習A～Dそれぞれに合わせて4種類のシナリオ(=「事例シナリオA」「同B」「同C」「同D」と、A～Dに共通の「事例シナリオ課題」を1種類準備する
- (2) 学生は、自らの履修するカテゴリのシナリオを選択する
- (3) その上で「事例シナリオ課題」への「個人としての解答」を作成する
- (4) (3)を、プロジェクト実習A～Dのカテゴリごとにグループを組んで議論し、「グループとしての解答」を作成する
- (6) その上で、プロジェクト実習A～Dのカテゴリを越えて、それぞれの「グループとしての解答」を共有・議論し
- (7) 最終的に、「プロジェクト実習履修者全体としての解答」を作成・共有する

意図する所は

- (1) プロジェクト実習履修者がこれから遭遇するであろう状況を、デフォルメされたキャラクターで構成されたシナリオで疑似体験させ
- (2) チームメンバーそれぞれの個性を分析し
- (3) チーム活動において、個性を異にするメンバーそれぞれの「あるべき姿」を考えさせ・議論させ
- (4) 議論の結果と自らの姿を対比させることで、今後、現実の活動の中で自らが採るべき行動・言動について「あるべき姿」を自覚させる

所にあります。

このため、教員が準備する4種類の事例シナリオには

- (1) シナリオ中で示される具体的な問題状況は、プロジェクト実習A～Dそれぞれの状況を踏まえた・履修者にとって実感が持てる内容であることが必要であると同時に
- (2) 登場人物のキャラクターや、発生する問題が統一的に定義されていることが必要となります。

以上のことから、今年度の「事例シナリオ」は

- (1) 学生A～D並びに課題提案者Z氏のキャラクターを設定し、「プロジェクト実習C(異文化交流・国際理解)」で想定される問題状況を念頭に、「事例シナリオC」[編者注・本章図17]を作成し
- (2) 事例シナリオCを雛形とし、「プロジェクト実習A(総合)」「同B(地域連携・地域貢献)」「同D(PBL型インターンシップ)」それぞれで想定される問題状況を念頭に、「事例シナリオA」「同C」「同D」を作成するという手順で作成しています。

*キャラクターは、分かりやすくデフォルメします。

(1)学生自身に構想させるため、提案者は「独自の構想を持っていない」キャラクターに設定する。

(2)プロジェクトメンバー4名は、良くも悪くも個性的で協調性に乏しいキャラクターに設定する。

→提案者は丸投げ状態、プロジェクトメンバーは協調性なしという悪条件下で、対応を考えることが学びに繋がる。

雛形
プロジェクト実習
C用
(図17参照)

[プロジェクト実習A用]

事例シナリオA

「商店街を元気にするプロジェクト」

*Zさん：水戸市北町四丁目て文房具店を営む59歳。近年、人通りの少なくなった商店街の行く末に頭を悩ませ、昔のように人を呼びたい(呼び戻したい)と強く思っているが、現時点では「願望」レベルに留まっており、独自の「情報収集」「分析」「課題設定」「企画」はない。

Z：北町の大通りでは、昔は歩く人同士が肩をぶつけ合うくらいだったんですが、今ではそんな光景を見ることはありません。それでね、ほら、ありますでしょ、「〇〇を元気にする」とかいうやつ、なんか、そういう、いいプランを考えてほしいんですが。

A：じゃ、人社のCさん、よろしくね。俺、人コミだから、わかかんね〜。

C：土日のどっかで道路を歩行者天国にして、焼きソバとかクレープの屋台を出して“お祭り”みたいなするの、どうですか？ ちょっとずつ、いろいろ食べ歩きとかしてみたい♥。

D：いいんじゃない？ 一丁目から四丁目まで、屋台は何軒、並ぶだろ？

B：イベントで中心市街地活性化か。よくあるパターンだな。

A：だりい〜 屋台ってさ、準備がたいへんそうじゃね？

D：だいじょうぶよ。サークルで学園祭の時にやったんだ。みんなでやれば、あっという間にできるよ。

B：ちょっと待って。屋台はさ、僕らが出すんじゃないよね？ 商店街の人が出すんじゃないかな？ それに、・・・

D：じゃ、ググってみるね！ え〜と、「イベント」「屋台」「活性化」ってキーワードで検索してみよう。

A：そんな検索じゃ、ダメなんじゃね？ 俺やるわあ。かしてみ。

C：じゃあ私、北町商店街にお店が何軒あるか、調べてくるね。楽しみ〜♥

B：いや、あのさ、それもいいけど、「元気にする」方法はイベントだけじゃなく、他にもあるはず。Zさん、そうですよね？

Z：え？ ええ、まあ・・・そうでしょうね、きっと・・・

B：この種のイベントって、いろいろ先行事例もあつたよ。中に入れてみるよ。

事例シナリオD

「フェスティバルを成功させるプロジェクト」

Z：今年度も水戸市主催の「〇〇フェスティバル」の担当を引継いだものの、現時点では前任者から単に仕事を引継いだレベルに留まっており、独自の「情報収集」「分析」「課題設定」「企画」はない。

A：調べたやつ、どう？

D：ちょっと待って。調べてみるね！ え〜と、「フェスティバル」「団体」「活性化」ってキーワードで検索してみよう。

A：そんな検索じゃ、ダメなんじゃね？ 俺やるわあ。ちょっと貸してみ。

C：じゃあ私、どんな団体が参加してくれそうか、前回の事を調べてくるね。楽しみ〜♥

B：いや、あのさ、それもいいけど、フェスティバルって何ができれば成功かっていうのを先ず考えるべきじゃないですか、Zさん、そうですよね？

Z：え？ ええ、まあ、そうでしょうね、きっと・・・

B：先行事例、って言うんですか、どこかの都市でもフェスティバルってのは、やっていると思うんですが、それに成功したって、例えばどこでしょう？

Z：え？ いやあ、それが分れば苦労はないんだけど・・・

A：あ、俺、バイトの時間だから、お先〜。

D：ちょっと待ちなさいよ！ 次のミーティングの予定とか・・・あ、行っちゃった。

C：へー、Aくん、短い時間でよく調べたね・・・〇〇市のマップ？ 何だろ、これ？

D：あ、何かいろいろ、あるね。じゃ、先ずはこれ、みんなにも送るね。

B：情報の共有は必要だね。あとでこれを基に、みんなで整理してみよう。

C：こないだ、なんか授業でやったね。なんだったっけ？

B：KJ法だろう。

D：じゃ、やろう。先ずカードを用意しなくちゃね。

[プロジェクト実習D用]

事例シナリオB

「奥山カボチャのブランド化」

*Zさん：生産者代表。過疎・高齢化に悩む、奥山村青年団長・55歳。現状への危機感と奥山カボチャを活用した改善策への意欲はあるが、現時点では「願望」レベルに留まっており、独自の「情報収集」「分析」「課題設定」「企画」はない。

Z：奥山カボチャは、奥山村の在来種でもおいしいカボチャです。これをブランド化して村の活性化に繋げたい。いいプランを考えてください。

A：地味〜。それに俺、カボチャ嫌いなんだよな。

B：村おこしにご当地産品か。よくあるパターンだな。

C：ジェラートとかあ〜ロケットとかあ〜・・・お酒にはできないのかな？かわいゆるキャラ作りた

じゃあさっそゆるキャラのデザインを描いてみよう！

〜。カボチャ臭い酒なんて飲みたかねえ〜。

ゆるキャラの着ぐるみでえ〜、ジェラート売ったらあ〜、きつと女の子に人気が出るよおやねお店であ〜、イケメンのソムリエさんがいてえ〜、ゆるキャラのコスプレでえ〜、カ

をテストングなんかしてくれてえ〜♥

で、おもいっししシュールじゃね？

「奥山カボチャ」って何なんだ？在来種でおいしいって言われたって、見たこともないし。村おこし」って言ったって、実際の所は何も知らないし。

グろう！え〜と、まずは「奥山」「カボチャ」「在来種」ってキーワードで検索じゃ、欲しい情報なんて出てこねえんじゃね？俺やるわあ。かしてみ。

私、カボチャプリンを試作してみるね〜♥

そうじゃなくて！一口にブランド化って言っても色々なんだから、まずはゴールの具体像を

や。そうだ、Zさんはどういう基本戦略をお考えなんですか？

なんにも。奥山カボチャが高く売れて、奥山村が有名になったらええなあ・・・

〜・・・わがんね。

の、こ置いとくぜー。俺、バイトあつから先帰るわあー。

待てえ！みんなで協力して取り組んで言われてっだろ！

短時間でよくここまで調べたな。まずはこれで情報共有から始めようか？

B。お前リーダーやれ。ほら、あるだろ。ブレンストーブとか何とか言うの。ブレンストーミング！でも僕は知的分析者だ。リーダーなんて勘弁してくれ。

あ！口先だけかあ！！

[プロジェクト実習B用]

井の中の蛙



1

西高東低・同志社大
東の雄・山形大
役者揃いの東京周辺

2

先進地に学べ！
教員は
公費出張

3

先進地に学べ！
学生は
自腹で
行け！



そ、そんな
無茶な！



学生にこそ

先進地に
学ぶ機会を！

6

趣旨書

プロジェクト実習と親和性の高い目的・内容・形態で実施されている他大学・先進地域の取り組みを参観し、これまでの自らの取り組みと比較検証することを通じて、プロジェクト実習は勿論、各人の今後の勉学・諸活動に活かすべき<学び>を得ること

7

1:自らが学ぶ 2:仲間に還元

8

先進地実地研修 (近郊)

東京近郊
全員参加が原則

9

先進地実地研修 (遠郊)

関西～東北
代表者若干名

10

2015年度は 近郊：東京・拓殖大

社会人基礎力育成
グランプリ2016
関東地区予選大会
<https://www.mda.ne.jp/kisoryoku/index4.html>
参観



11

遠郊：山形・金山町

現地講師によるレクチャー・現地見学・
大学環ネットかねやまフォーラム2015参観



12

資料5：先進地実地研修のしおりと課題指示書（2015年度報告会資料より）

図 3:2015 年度先進地実地研修(近郊)しおり(1/4 縮小)

**2015 年度 プロジェクト実習
先進地実地研修(近郊)**

**社会人基礎力育成グランプリ 2016
関東地区予選大会**

<https://www.mda.ne.jp/kisoriyoku/index4.html>



2015 年 12 月 6 日
拓殖大学文京キャンパス C 館 201 教室・301 教室

I：趣旨説明

1：目的
先進地実地研修は、プロジェクト実習の一端として2013年度から実施しています。プロジェクト実習履修生は全員参加を原則として東京近郊で実施する「近郊」と、履修生代表者若干名により東北地方～近畿地方で実施する「遠郊」の、二種類が準備されています。そのいずれも、目的とする所は

プロジェクト実習と親和性の高い目的・内容・形態で実施されている他大学の取り組みを参観し、これまでの自らの取り組みと比較検証することを通じて、プロジェクト実習は勿論、各人の今後の勉学・諸活動に活かすべく<学び>を得ること

にあります。
このしおりの「IV：担当教員より」にも記しているように、漠然と眺めていたのでは効果がありません。「他校の取り組みを自らの取り組みと比較検証する」という姿勢で参観する事が重要です。

2：今年度の参観対象
2015 年度の先進地実地研修(近郊)では、東京・拓殖大学で開催される「社会人基礎力育成グランプリ2016・関東地区予選大会」(<https://www.mda.ne.jp/kisoriyoku/index4.html>)の参観を行います。

3：社会人基礎力と根力
「社会人基礎力」とは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱している能力です。「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成されており、経済産業省のIPでは、「企業や若者を取り巻く環境変化により、『基礎学力』『専門知識』に加え、それらをうまく活用していくための『社会人基礎力』を意識的に育成していくことが今まで以上に重要となってきました。」とされています。
プロジェクト実習の背景となっている茨城大学就業力育成支援事業・根力育成プログラムでは、「根力(ねちから)」という能力を掲げていますが、この根力は社会人基礎力をベースに茨城大学独自の要素を加えて構成しています。つまり、根力のコア部分をなすのが社会人基礎力ということになります。

4：社会人基礎力育成グランプリ
社会人基礎力育成事業の一端として、全国の大学における「社会人基礎力」の育成事例とその成果を学生チームが発表する場として、「社会人基礎力育成グランプリ」が設定されました。2007年度に全国7大学でスタートし、2012年度以降は100チーム以上が参加する大規模なイベントとなっています。現在は創価大学に事務局を置く非営利組織「社会人基礎力協議会」が運営しています。

II：全体日程表

9：00 茨城大学水戸キャンパス発
*水戸キャンパス乗車者は、8:50までに生協前周辺に集合

9：15 JR赤塚駅北口発
*JR赤塚駅北口乗車者は、9:05までに指定の場所(次ページ参照)に集合

12：00～12：30頃 拓殖大学着
*拓殖大学文京キャンパスC館 201 教室・301 教室
〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14
URL：<http://www.takushoku-u.ac.jp/>

12：50 開会式
13：10 発表参観開始
*発表は二系統に分かれてC201・C301の二カ所で別々に行われます。二手に分かれて参観して下さい。参観者が片方に偏りすぎないよう、適宜譲り合ってください。
*参観教室の変更は、原則として14:50～の休憩時間のみとします。やむを得ない場合は発表者の交代時に移動して下さい。発表中の移動は発表者ならびに他の参観者に失礼となりますので禁止します。

- 13：10 発表 1グループ
- 13：30 発表 2グループ
- 13：50 発表 3グループ
- 14：10 発表 4グループ
- 14：30 発表 5グループ
- 14：50 休憩
- 15：00 発表 6グループ
- 15：20 発表 7グループ
- 15：40 発表 8グループ

16：00頃 発表参観終了(第8グループ発表終了時点で中座)
*発表は9グループまであり、更に審査その他と続きますが、帰着時刻の関係から本学の参観は8グループまでとします。発表者・参観者の失礼にならないよう、静かに退出して集合場所(当日指定します)に移動して下さい。

16：15頃 拓殖大学発
19：00頃 JR赤塚駅着
*JR赤塚駅降車者は解散

19：15頃 茨城大学水戸キャンパス着
*完全解散

*バスは大学間で準備しますので、茨城大学一拓殖大学間の足代は不要です。
*食事代等は、各自の負担となります。
*昼食は各自持参し、車中～開会式前までの間に適宜済ませて下さい。
*夕食については、解散前に摂る／摂らないを含めて、各自の自由とします。
*移動の途中、サービスエリア等でトイレ休憩を取ります。短時間ではありますが、その際に弁当等を購入することは可能です。
***当日の緊急連絡は、鈴木敦の携帯(XXX-XXXX-XXXX)へお願いします。**

参加者名簿・乗降地一覧
<略>

赤塚駅北口乗降地地図(赤丸の付近に集合して下さい)
<略>

III：主催者より

主 催：社会人基礎力協議会
共 催：経済産業省
後 援：公益社団法人経済同友会、日本商工会議所
協 賛：SMB Cコンシューマーファイナンス株式会社、株式会社ウチダ人材開発センター、日本経済新聞社、キープアクター株式会社、メディア総研株式会社

- ・満席になりました場合には、立ち見や入場制限を行う可能性もありますので、予めご了承ください。
- ・当日は学食が休業日です。キャンパスから徒歩3分圏内のスーパーや飲食店をご利用ください。なお、当日受付時に駅周辺の飲食店マップを配付します。ご活用ください。
- ・当日はクロークや荷物置場等はございません。貴重品は各自で管理していただくようお願いいたします。万一、トラブルが発生しても事務局では一切、責任を負いかねます。
- ・撮影は行って頂いて結構ですが、発表の邪魔にならないよう配慮してください。ただし、事前に発表者の許可を得るようにしてください。
- ・スケジュールが変更になる場合もございますので、予めご了承ください。

【予選大会当日の連絡先】
会場校：拓殖大学 文京キャンパス
就職キャリアセンター 統轄部
担当： 栗田(きだ) 後藤
TEL：XX-XXXX-XXXX E-mail：xxxxxxxxxxxx@ofc.takushoku-u.ac.jp

IV：担当教員より

1：当日のスムーズな活動のために

当日は団体で行動します。遅刻や無断欠席等の無いよう、お願いします。
当日、緊急時の連絡は、下記鈴木敦の携帯へお願いします。

鈴木敦携帯電話番号：XXXX-XXXX-XXXX

＊鈴木敦の携帯電話は、普段は不携帯電話です。当日以外はメールをお願いします。
車に酔いやすい人は、乗車時にその旨伝えて下さい。前寄りの席を手配します。

2：学びのために

いくら優れた取り組みでも、漠然と眺めていたのでは学びは得られません。学びを活性化させる「しかけ」として、以下の2点をお願いします。折角の機会です。アクティブに取り組んで下さい。

(1)採点表の記入・提出

①採点表の記入（当日・紙媒体）

次ページに採点表を組み込んでいます。それぞれの発表を聴きながら・同時進行で記入して行って下さい。

「コメント」欄は、できるだけ記入して下さい。但し、「コメントに悩んでいる内に次の発表を聞き漏らした」となると本末転倒ですので、空欄になっても構いません。

採点・コメントとも、あんまりあれこれ考えすぎると、却って上手くいきません。直感で、「エイヤッ!」と書いてしまうのがコツです。

②採点表の提出（後日・電子媒体）

ガルーンの「プロジェクト実習（全体）」おしらせ欄に、採点表のフォームをアップしています。これに上記①のメモを転記して、鈴木敦（XXXXXXXXXXXX@ve.ibaraki.ac.jp）宛に12/20までに送信して下さい。その際、**ファイル名・メールの件名はいずれも「採点表（氏名）」**として下さい。

電子媒体のフォームには、標題の下に学籍番号・氏名を記入する欄があります。忘れずに記入して下さい。

＊②は、プロジェクト実習履修生の皆さんは「必ず」、プロジェクト実習履修生以外の皆さんは「できれば」お願いします（鈴木敦宛にメールを載ければ、採点表フォームをメールでお送りします）。

(2)ミニレポートの作成・提出

既にお送りしている「ミニレポート作成指示書」に沿って、作成・提出して下さい。念のためこのしおりの7ページに指示書を再録します。

＊ミニレポートについても、プロジェクト実習履修生の皆さんは「必ず」「レナディで」、プロジェクト実習履修生以外の皆さんは「できれば」「鈴木敦宛に添付ファイルで」提出して下さい。

20151206先進地実地研修（近郊）社会人基礎力育成グランプリ関東地区大会採点表

No.	大学名	採点（1=最低・6=最高の、5段階評価）							合計	
		発表				活動内容				
		PPT	ハンドアウト	プレゼン	質疑応答	着眼点切り口	プランニング	具体的取り組み		計画の達成度
1A 1B	埼玉女子短期 芝浦工業									0
コメント										
2A 2B	城西 福州									0
コメント										
3A 3B	千葉経済 諏訪東京理科									0
コメント										
4A 4B	創価A 多摩									0
コメント										
5A 5B	明星 創価B									0
コメント										
6A 6B	大東文化 拓殖B									0
コメント										
7A 7B	東洋学園 東洋									0
コメント										
8A 8B	拓殖A 明海									0
コメント										

大学名欄 参観しなかった大学名を削除
採点欄 1=最低～5=最高で記入
＊「学び」欄は、「発表者達が、今回の活動を通じてどの程度学びを得たと思われるか」についての採点者の推測
合計欄 入力時に自動計算されます

(4) 研修日程終了後の活動

①採点表

採点表は、当日、しおり（図 3）の最終頁に綴じ込まれていた紙媒体のフォームに手書きで記入したものを、後日電子媒体にして提出する形を採った。プロジェクト実習非履修の1名を含め、全員が提出した。大学名を「A～H」と置き換えた上で、一例を図4に示す。

当日は二会場制が採られたため、学生達は同一時間帯に行われる二つの発表のどちらか片方だけを聞くこととなる。また、採点欄の内「ハンドアウト」については、当日のプレゼンが全てハンドアウト無しで行われたため、一律に採点対象外とした。

発表間のインターバルが短いため、コメント欄は「できるだけ記入」という緩やかな指示にしたが、長短はあるものの、殆どの学生が何らかの記入をおこなった。

筆者が違和感を覚え、学生のコメントにも類似のとまどいが散見したケースとして、「教員の徹底的な指示の下に学生が全力で動き、客観的に高い達成度を持つ成果物を生んだ」取り組みがある。「成果物のすばらしさに異論は無い。しかしここまで教員が指示したら、それはPBL授業と言えるのであろうか？」という問題である。

しかし、冷静に考えてみれば、社会人基礎力育成グランプリは、「大学が提供したカリキュラムへの取り組みを通じて、学生がどこまで社会人基礎力を身につけたか」を競うものである。具体的な手法として、しばしば「課題解決」が採用されるため、あたかも「PBL授業の実践と成果の競技会」であるかのような印象を抱きがちである。しかし、同グランプリの本質はあくまで「社会人基礎力育成の達成度」を競う所にあり、「理念型としてのPBL授業の実践」を競うものではない。「PBL(的)手法」は、社会人基礎力育成の有力な手法の一つではあるが、決して唯一の手法ではないのである。

一方で、本学のプロジェクト実習は「学生が自発的に取り組み・失敗の中から学びを得ることを最優先とする」のが設計の根本理念であり、「教員は極力手を出さない」というのが運用の大方針である。

学生達を感じた「とまどい」は、彼らが本学プロジェクト実習の理念・方針をよく理解してくれていることの証左とも言える。

この切り分けが、事前に担当教員自身にできておらず、必然的に参加学生にも告知されていなかったために、採点に当たっても混乱を招いた部分があり、反省している。次回、本催事を参観させて戴く場合には、本催事の趣旨と本学のプロジェクト実習ならびに先進地実地研修（近郊）の趣旨との間に存在するズレについて、事前に十分な整理と説明をしておく必要があると感じた。なお、PBL 授業と成果物の完成度を巡る問題については、第IV章 2-(6)トークセッションも参照されたい。

NO.	大学名	採点 (=最低・・5=最高 の、5段階評価)									合計
		発表				活動内容				学び	
		PPT	ハンドアウト	プレゼン	質疑応答	着眼点切り口	プランニング	具体的取り組み	計画の達成度		
1	A大学	3	0	5	4	4	4	5	4	4	33
コメント	観客に意識的に視線を配り、明瞭な声でトップバッターにして堂々とプレゼンしていたと思う。現場の中の色々なダメ出しを踏まえて、工学的アプローチを効果的に農業に組み込むという点で、第一弾、第二弾の活動につながりを感じられた。PPTはLINEのトーク画面のような演出があったりして面白かったが、全体的に文字量が多く感じた。										
2	B大学	5	0	5	4	5	4	4	4	4	35
コメント	活動の流れが明瞭でわかりやすい良いプレゼンだったと思う。一年生だが堂々とした発表だった。活動の中でどのような基礎力を磨いたのかが明確で、状況の分かるイラストも用いたデザイン性の高いPPTだった。具体的なプロジェクトの活動内容を提示した上で、どのよう課題解決に作用したのかをもっと知りたかった。										
3	C大学	4	0	1	2	5	5	5	3	4	29
コメント	図を多用して分かりやすいPPTだったと思う。プレゼンでは原稿に目を落としている姿が気に入り、せっかくのPPTのアニメーションとタイミングがずれたりともったいなかった。発表時間をオーバーしてしまい動揺したのか、その後の質問でチグハグな回答が目立った。取り組みとしては非常に興味深かったので惜しかった。										
4	D大学	5	0	4	3	3	5	5	5	3	33
コメント	吹き出しやイラストを用いた図解が面白いPPTだった。「900回を超えるメディアアプローチ」など、具体的な数字で活動の成果が提示されていてインパクトがあった。暗転で聴衆の注意を引くなど、工夫されたプレゼンだった。それだけに、質問でややのを外れた答えをしている姿が目立った。										
5	E大学	4	0	4	4	5	4	5	4	4	34
コメント	声・表情・ジェスチャーなど練習が感じられるプレゼンで、非常にハキハキとしていたが「作られすぎている」印象を受けた。原稿をまるまる覚えていて、その中に学生自身の言葉というものが感じられなかった。質問を受ける際、相槌をしながらメモを取り、ある程度回答を用意して臨んでいる点は見習うべきものを感じた。										
6	F大学	4	0	5	4	5	4	5	3	4	34
コメント	突出して良い発表というわけではなかったが、安定していて印象の良いプレゼンだった。落ち着いて聞くことができ、内容が頭に入ってくる感じだった。「50年後の自分達のために」と視点を切り替えて活動したことで課題解決力を磨いていった印象を受けた。質問の回答では、一人称で素が出るなど危うい姿もあったが、全体を通して良い意味で学生らしかった。										
7	G大学	3	0	2	4	5	5	4	3	3	29
コメント	笑いどころが用意されたプレゼンで、浴衣や墨で文字を書いたTシャツで登場するなど、エンターテインメント性に富んだプレゼンだった。各自の役割分担を明確にしチームワークを形成しているようだった。PPTは文字量が多く、少々見るべきところが分かりづらかった。この活動を通して結局英語力は向上できたのが疑問に思った。										
8	H大学	4	0	2	4	4	4	5	4	4	31
コメント	警視庁との協力で活動を進めるなど、非常に活動的なイメージを持った。原稿に目を落としている時間は長いですが、内容が入りやすい話し方をしていた。PPTは適度に図は入っているが、少々文字が細かくて見づらかった。質疑応答では学生の体験談を通して、自分の言葉で話している姿が好印象だった。										

図 4:採点表記入例 (茨城大学人文学部 3年 XXXX)

②レポート

先進地実地研修（近郊）参加者には、しおりと同時に図5に示すレポート作成指示書を配付した。

20151206 先進地実地研修（近郊）ミニレポート作成指示書

20151120 鈴木敦

ミニレポートは、以下の要領で作成して下さい。

1：レイアウト・布字・字数等

ワードでA4タテ・横書き

余白は上下左右各 23・21・20・20

45字/行 48行/ページ

基本的にMS明朝・10.5ポイントとするが、必要に応じて変更可。

必要に応じて写真・図表等を盛り込む

写真・図表等を除いて「400字以上・上限無し」（文字カウント機能で確認して下さい）

*題名・氏名も文字数に加えます。

2：ファイル名・送信先・締切等

ファイル名：2015 先進地実地研修（氏名）

送信先：レナンド「プロジェクト実習（全体）」の「課題」の04番

締切：2016年1月6日 23:00

3：レポート冒頭の体裁について

(1)第一行に〈中央揃え〉で題名を記して下さい。

*文章の内容に沿った題名を考えて下さい。「先進地実地研修に参加して」式の、〈小学生の夏休みの日記のような〉f(^_^; 題名は避けて下さい。

(2)第二行に学籍番号氏名を〈右寄せ〉で記して下さい。

(3)第三行から本文を記して下さい。

4：内容

他大学の発表を聞いて、「これを学んだ・今後活かしたい」ということを記して下さい。

(1)「素晴らしいから見習いたい」「あれはよくない。ああなつてはいけない」のどちらからでも/両方からでも結構です。

(2)記述対象は、「取り組み内容」「プレゼンの仕方」のどちらでも/両方でも/それらを踏まえてより踏み込んだ内容でも結構です。

(3)取り上げる発表は一校でも・複数校でも結構です。

(4)記述は、なるべく具体的にお願いします。

悪い例「発表してくれた大学は、みんなすごいなー、見習わなくちゃいけないなーと思いました♪」

よい例「〇〇大学の取り組みにおいて、メンバーは××というプロジェクトに取り組む中で△△という問題に直面し、◎◎という対応をすることでこれを解決した。類似の問題は、今年度の自分のチームでも発生したが・・・」

「〇〇大学のプレゼンは、使用したPPT・ハンドアウトの見やすさもさることながら、発表時のアイコンタクトや・・・」

「〇〇大学の発表は、内容・プレゼン共に素晴らしかったが、特別積極的な一名が一人で切り回して来たな、ということがありありと伝わって来た。チームでの活動を前提とするプロジェクトで・・・」

図5:レポート作成指示書

チーム内相互評価表

評価者名:

この表は「チーム内メンバー同士」での相互評価用です。**自分自身を含めて貢献度が高いと判断した人から順に氏名と役割分担を記入して下さい。**隣接する上位と下位の間隔を、それぞれ1～5の数値で記して下さい。その際、「**同一順位**」は**厳禁**です。また、最上位から最下位まで間隔が全て同一、というのも通常はあり得ません。評価欄の記述内容と整合が取れるよう十分意を用いつつ、大小のメリハリを効かせた数値を定めて下さい。2位以下の人の評価文には、「**すぐ前の人(2位の人なら1位、3位の人なら2位)との間隔(1～5)の判断根拠**」も必ず記して下さい。

皆さんにとっては、将来「管理者・評価者」として「公平・公正な評価」を下せるようになるためのトレーニングになります。仲良しを最優先せず、自分のことも変に謙遜せず、ひたすら「公平・公正な評価」に努めて下さい。皆さんから提出された相互評価表の、担当教員にとっての意義は2つあります。1つは、担当教員が評価を下すに当たって、客観性を高めるための参考資料。もう一つは、提出者の「公平・公正な評価能力」を評価するための判断材料です。つまり、「**評価を下した皆さん自身が、自らが下した評価の公平性・公正性によって評価される**」ということです。恐らく、今回の授業で一番イヤ～な作業になると思いますが、頑張ってください！

順位	氏名	役割分担	評価	評価	間隔(1～5)
1 (高)					
2					
3					
4					
5					
6					
7 (低)					

*チームの人数が多くて、この表に収まらない時は、適宜追加して下さい。

プロジェクト実習「先進地実地研修（近郊）」報告

先進地実地研修（近郊）報告

公益社団法人 日本観光振興協会
2016年度産学連携ツーリズムセミナー 参観
(付・ツーリズムEXPOジャパン 参観)

2016年9月23日(金) 東京ビックサイト

小野瀬莉央 佐藤宇輝 1

目次

- 1 目的
- 2 産学連携ツーリズムセミナーとは
- 3 2016年度 出場校とテーマ
- 4 学び(1) PPTの作成法
 - (2) プレゼンの作法
 - (3) チーム活動の進め方
 - (4) PDCAの回し方
 - (5) 自らの活動とプロジェクトの関わり 2

目的

- (1)他大学・先進地域の取り組みを参観
- (2)自らの取り組みと比較検証
- (3)プロジェクト実習、並びに今後の勉学・諸活動に活かすべき<学び>を得る

3

産学連携ツーリズムセミナーとは

- ・主催:公益社団法人日本観光振興協会
<http://www.nihon-kankou.or.jp/home/>
- ・共催:日本学生観光連盟
<http://www.gakukanren.com/>
- ・SINCE 2005
- ・発表者:主に観光系の学部・学科・ゼミ単位
cf.茨城大学プロジェクト実習

4

2016年度 出場校とテーマ

- 1) 山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科
歴食をたのしむ「一味同心」プロジェクト
～街道をロングテーブルでおもしろくする～
- 2) 東洋大学 国際地域学部 国際観光学科
カルチュラル・オリンピックを活用した地域活性化
- 3) 摂南大学 経済学部 経済学科
郷土愛が創る!温もりあふれる自然のホテル「グランピューラ」
- 4) 文教大学 国際学部 国際観光学科
観光人材育成のための研究及び提言
「学生×地域×観光 ～スチューカル・プロジェクト～」 5

学び(1) PPTの
作成法

キーワードを
小見出しに
(B大学)

6

学び
(1)
PPTの作成法
情報が不十分
(A大学)



7



学び(1) PPTの作成法
写真のみで文字のないスライド
(C大学)



8

学び(2) プレゼンの作法

相手の興味を引く





伝える努力を惜しまない

9

学び(2) プレゼンの作法

キーワードを利用
(B大学)




発表の軸を提示する→理解がスムーズに

10

学び(3) チーム活動の進め方

専門知識や得意分野を生かした役割分担
(B大学)



多様性or課題を様々な角度からみる

11

学び(4) PDCAの回し方

Plan	(計画)
Do	(実行)
Check	(評価)
Action	(改善)

12

学び(5)
自らの課題とプロジェクトの関わり①

Plan
Do

問題—目標の関係がしっかり

↓

プロセスがはっきりする

13

学び(5)
自らの課題とプロジェクトの関わり②

Check
Action

ワークショップで協議を繰り返した
(C大学)

↓

結果を確認・修正していく重要性

14



ご清聴ありがとうございました

15

「プロジェクト実習A」(総合) 報告

プロジェクト実習A カフェ×まちづくり 活動報告

2016.12.10
岩本 有彩 栗原 将也
坂口 芹奈 跡辺 朱理
岩出 夏輝 肥後 亮志

目次

- ・カフェ×まちづくり 目標
- ・今年度 活動報告
- ・まとめ



2

カフェ×まちづくり 目標

活動支援者
地域のカ
フェ?
他

地域のカフェにご協
力を賜り、地域と、
大学とを様々なアプ
ローチでつなげる。

プロジェ
クト
実習A

水戸市、笠間市
他

地域へ

大学をより地域に根差し
たものにし、地域と大学
の連携を強める。

自らへ

地域に根付いた活動の体験
から、地域愛を育み、地域
社会への参画体験をする



3

活動報告

0.某県内コーヒーチェーン店様 とのコラボレーション

5月31日
ご協力の依頼

6月末
商品開発案
提出

9月
水戸農業高校様
にて、22日に試
食会を設定

ご快諾
→コラボレ
ーション開始

7月中旬
第1審査 通過
8月某日
最終審査 通過

9月16日
本社より協力できな
いとのご連絡。
コラボレーション中
止。

4

活動報告

1.里川かぼちゃ スイーツ開発

[目的]

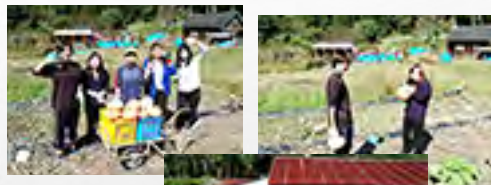
- ・特産品のおいしさをより多くの人にとって頂く
- ・地域の方々との交流を深める

[活動内容]

- ・里川かぼちゃ 収穫祭へ参加
- ・常陸太田市 里美地区の農家様より里川かぼちゃをお譲り頂
く。
- ・水戸農業高校 食品化学科の生徒様のご協力で、
里川かぼちゃのスイーツのレシピを考案していただく。

5

収穫祭の様子 (2016.10.15)



たくさん
収穫できま
した!

6

試食会の様子 (2016.9.22)



かぼちゃのタルト
 ・かぼちゃのパイ
 ・かぼちゃのシフォンケーキ
 かぼちゃのミルフィーユの4種類



7

当初→県内コーヒーチェーン店様とのコラボレーションで使用するスイーツとしての開発。

シフト!

提携先を変える

地域のカフェで、かぼちゃのスイーツを楽しんでいただく。

8

活動報告
2.豊作祭 試食コーナー
 with さとみ・あいチーム

[参加の目的]

- ・里美地区の方々への感謝の気持ちをお伝えする
- ・特産品を使用したスイーツを、地域の皆様と楽しむ。

[活動内容]

- ・豊作祭
- ・里川かぼちゃのスイーツ作成、試食

9

豊作祭の様子



10

良かったこと・反省点

[良かったこと]

- ・かぼちゃのスイーツを通して皆様と交流することができた。
- ・作成にも関わることができた。

[反省点]

- ・日程調整がうまくいかず、参加するメンバーがあまり確保できなかった。

11

活動報告
3.笠間の家 スイーツ提供

[概要]

ギャラリー「笠間の家」オーナー様のご厚意で、ギャラリー併設の小さなカフェにて、里川かぼちゃを使用したスイーツの提供をする。

12



12月1日より
提供開始!

13

反省点（年間を通して）

- レシビ開発や実際の作成には関われず、一任になってしまった。
- メンバーの日程調整がうまくいかず、全体の活動を通して参加人数があまり確保できなかった。
- チーム内での情報共有が遅れ、情報量に偏りがあり、しばしば混乱してしまった。
- チーム内での役割分担がうまくいかず、活動量にも偏りが出てしまった。

14

良かったこと・学んだこと

- 地域の農家様や生徒様たちとふれあうことができた。
- 茨城の自然を感じた上で、スイーツになることでその喜びが一層高まった。
- プロジェクト一年目ということもあり、数々の挫折を経験したが、「提携先を変える」という形に迅速にシフトし、活動を継続することに成功した。
→持ち前のチームワークと地域の方々からの幅広いご支援の賜物
- 危機に直面した時に素早く頭を切り替え、次の策へと移ることが重要だと学んだ。

15

今後の展望

- 「笠間の家」スイーツ提供 広報活動
→より多くの方に味わっていただきたい。
- 提携先の拡大
→大学と地域の輪を広げていきたい。

16


お世話になった方々

- 茨城県立水戸農業高校
 - 食品科学科 生徒の皆さま
 - 食品科学科 新堀 俊博先生
- ギャラリー「笠間の家」 田代 卓様
- 荷見様および常陸太田市 里美地区の皆さま
- プロジェクト実習 さとみ・あいチームの皆さま

本当にありがとうございました!

17

ご清聴ありがとうございました。



18

『プロジェクト実習B』（地域連携・地域貢献）報告

さとみ・あいの プロジェクト実習



目次

- さとみ・あい活動目的
- メンバー紹介
- (今年の)さとみ・あいのモットー
- 今年の活動
- さとみ・あいの強み
- 学んだこと
- 反省

さとみ・あい活動目的

学生視点で里美の魅力をPRする
里美を外の人に知ってもらおう
里美との新たなつながりづくりのお手伝いをする

メンバー紹介



(今年の) さとみ・あいモットー

- 楽しき中に成果有り。
- 親しき仲にも礼儀有り。
- 歴史の中に今が有り、

今年の主な活動

- さとみの魅力を実感する
さとみ・満喫DAY
味覚祭
- さとみの薫のブランド化
わら納豆プロジェクト
- 「里川カボチャ」を中心とした魅力発信
ときわ祭
豊作祭

さとみ・あいの強み

- 多様な連携先
- 個性豊かなメンバーたち
- 成果の可視化



7

多様な連携先

- 「わら納豆プロジェクト」
 - 教育学部岩佐淳一教授
 - 里美倶楽部様
- 里川カボチャ研究会 荷見誠様 荷見カツ子様御夫妻
- 「ときわ祭」
 - 水戸農業高校食品化学科様
 - 里美ふるさと振興公社様
- 「灰苑祭」
 - プロジェクト実習の皆様



8

新たな連携先

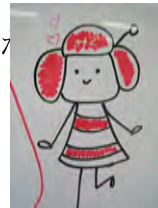
- 常磐大学プロジェクト科目の皆様



9

個性豊かなメンバーたち

- 「豊作祭」「ときわ祭」
 - 動画担当
 - 演出担当
 - 調理担当
 - 司会担当
 - 渉外担当
 - デザイン担当
 - グイグイ担当
 - お目付担当



10

成果の可視化

- 茨城新聞 (2016年10月1日付)
- 所さんの目がテン (2016年10月22日放送回)
- 日本農業新聞(2016年11月2日付)



11

学んだこと

- 革新と継続のバランス
- 潮目



12

潮目

- それぞれの「強み」を活かすことで、可能性が広がる。
- 「ワザ」と「権威」
 - 自分たちが持つものをどう活かすか？
 - 自分たちにはないものをどう用意するか？

13

革新と継続のバランス

- 茨苑祭未出店 と ときわ祭出店
- ※どんなプロジェクトにも通ずるのではないか。

14

反省

▪甘え

連携先に対する「甘え」

目的達成に対する「甘え」

15

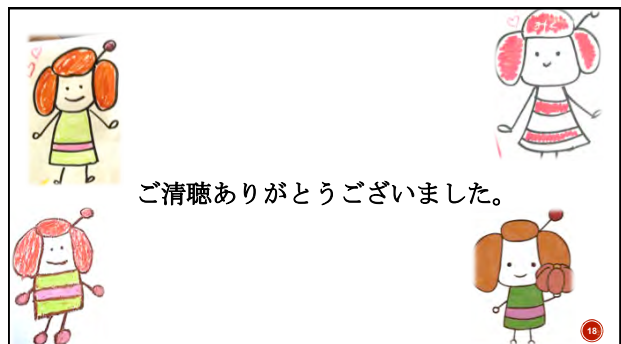
さとみ・あいの プロジェクト実習

16

お世話になった方々

数知れず。

17



18

ICxIU=E-girlsチーム

異文化交流プロジェクト 活動報告会

茨城キリスト教大学2年 安藤 沙彩
飯村 祐美
大野 愛恵
高場 菜央
茨城大学3年 鈴木 美緒

1

異文化交流プロジェクト 2016

茨城キリスト教大学
(日本人学生と留学生)
茨城大学の留学生
水戸市又は日立市
近辺の高校生

たとえば・・・
1.留学生と高校生、大学生が
交流するフォーラムを開く
2.大学文化祭や小学校で
異文化を紹介する など

プロジェクト
実習C
Since2012

茨城キリスト教大学
茨城大学(茨苑会館)

地域へ
高校と大学の連携
異文化理解の促進

自らへ
留学生と日本人との
交流活動を通じ、
自らも異文化理解を深める



2

チーム概要

二大学連携
茨城キリスト教大学(IC)×茨城大学(IU)

English + 5girls

→ E-girlsチーム

3

目次

1. 現状
2. プロジェクト概要
3. 企画内容
4. アンケート結果
5. 良かった点・改善点
6. 全体を通して学んだこと
7. 今後の活動
8. 御礼

4

現状

グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要である
文部科学省より (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352464.htm)

観光立国を目指す日本

↓

多くの外国人が日本を訪れる

↓

外国人に対応できる人材を育成しなければならない

5

現状

文化の面から興味を持ってもらう

↓

異文化交流プロジェクト

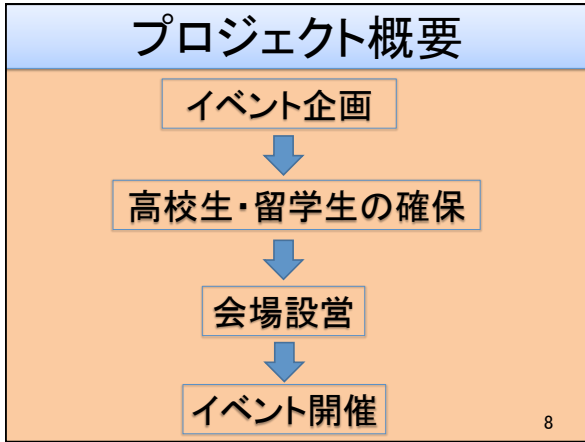
6

プロジェクト概要

〈異文化交流プロジェクト〉

日時：平成28年7月18日(月・祝)
 場所：茨城キリスト教大学3号館
 参加者：高校生33名
 (茨城キリスト教学園高等学校様、
 日立第二高等学校様、水戸第二高等学校様)
 留学生10名
 (茨城キリスト教大学、茨城大学)
 日本人大学生5名
 (茨城キリスト教大学、茨城大学)

7



企画内容

アイスブレイク(名前ゲーム)

9

企画内容

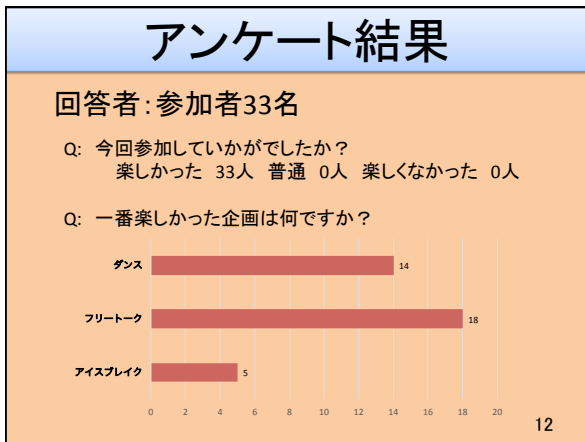
フリートーク

10

企画内容

ダンス It's a small world (俵田来未さん)

11



アンケート結果

〈分析〉

- ・フリートークが楽しかった。
→留学生と直接お話ししたいと考える生徒が多い
- ・国は違っても言葉が違うだけだなと感じた。私も英語をもっと頑張る。
→プロジェクトに参加したことで英語に対する意識が高まった生徒が多い

13

アンケート結果

- ・英語を日常会話レベルで話せればもっと楽しめるのではないと思う。英語を極めていきたい。
→英語に対するイメージに変化が見られた
- ・アイスブレイクやフリートークではまだコミュニケーションが少なかったけどダンスで距離を縮められたと思う。
→ダンスをすることによって、積極的に留学生に話しかけようとする生徒が見られた

14

良かった点・改善点

〈良かった点〉

- ・高校生に楽しんでもらえるような企画ができた
- ・アクシデントが起こった際によりよい対応ができるように努力した

〈改善点〉

- ・準備が直前になってしまったので、計画的に準備するべきだった
- ・2大学間での連携に欠けるところがあったため、情報共有を徹底するべきだった

15

全体を通して学んだこと

- (1) 二大学連携の難しさ
- (2) 社会人としての基礎力知識の修得
- (3) アクシデントへの対応力

16

全体を通して学んだこと

(1) 二大学連携の難しさ

- 5人そろって集まる機会が少なかった
→一人ひとりの活動量に偏りが出てしまった
情報共有ができなかった

〈改善点〉

- ① Skypeを有効活用するべきだった
- ② 仕事の分担を適切に行うべきだった

17

全体を通して学んだこと

(2) 社会人としての基礎力知識の修得

- ・議事録, 活動録
- ・メールのやり取り
- ・渉外
- ・ソフトの操作法

ビジネス能力



社会人として求められる最低限の能力を身につけることができた

18

全体を通して学んだこと

(3) アクシデントへの対応力

- ・予想外の出来事に対して機転を利かせた
- ・今ある状況に留まらず別の方法を模索した
- ・あきらめることなく問題解決に尽力した



「ピンチはチャンス」「失敗は成功の母」

19

今後の活動

①「小学校国際理解活動」

期間:平成28年12月中旬～平成29年2月上旬

対象:日立市内の小学校

内容:異文化の紹介

(アメリカ・ウクライナ, イギリス・キルギス)

②「New Year's party for international students」

日時:平成28年1月21日(土)〈予定〉

対象:留学生

内容:日本文化の体験

20

御礼

大川通昭教頭先生をはじめ、
茨城キリスト教学園高等学校の皆さま
坂本八穂先生をはじめ、
日立第二高等学校の皆さま
谷萩淳子先生をはじめ、
水戸第二高等学校の皆さま
茨城キリスト教大学 入試広報部の皆さま
茨城キリスト教大学 国際理解センターの皆さま
茨城大学、茨城キリスト教大学留学生の皆さま

21

ご清聴ありがとうございました



22

「プロジェクト実習D」 (PBL型インターンシップ) 報告

Domaine MITOチーム活動報告

鈴木勇希(リーダー) 石橋翔太郎(副リーダー)
 佐野智太(会計) 飯塚子都香(書記)
 高山直人 三角裕斗
 長澤賢司

目次

- > チーム紹介・活動目的
- > Domaine MITO・まちなかワイナリーについて
- > 活動内容
 - ...醸造体験
 - ...インターンシップ
(ランドネきたかんマルシェ、水戸まちなかフェスティバル)
 - ...サイト作成
- > 今後の予定
- > 一年を振り返って

2

チーム紹介・活動目的

〈Domaine MITOチーム〉

- ・茨城大学の人文学部2年生7人のプロジェクトチーム
- ・Domaine MITO株式会社様の協力のもとで活動

〈活動の目的〉

- ・学生視点でのDomaine MITO株式会社様のPR
- ・水戸市の中心市街地活性化への貢献

3

Domaine MITO(ドメヌ水戸)

—2015年に設立され、今年「泉町会館」で
まちなかワイナリーをオープン



4

まちなかワイナリーとは？

まちなかワイナリー		一般的なワイナリー	
街の中にある	手軽に体験ができる	農村にある	畑と隣接している
地域のコミュニティの場になる	全国的に珍しい	風景が楽しめる	車の移動が主

5

醸造体験

【日時】主に夏季休業中の数日間

【場所】泉町会館(ワイナリー)

【活動内容】つくばのワイナリーでのぶどう収穫
泉町会館で醸造、びん詰、ラベル貼りを体験

(成果)

- ・まちなかワイナリーの魅力を認識することができた
- ・実際に体験し、それまでの醸造に対するあやふやだったイメージを固めることができた

6

活動の様子



7

インターンシップ:ランドネきたかんマルシェ

【日時】 2016年9月18日～20日の三日間

【場所】 新宿駅西口イベントコーナー

【活動内容】 Domaine MITOの赤ワインと
ロゼワインの先行販売のサポート

北関東4市(宇都宮、前橋、
水戸、高崎)の共同で初めて
開催された物産フェア



8

成果と反省点

イベント後にアンケート調査などの結果分析、反省会を実施
(成果)

- ・チームで情報共有ができた
 - ・お客様に商品をアピールすることの難しさを知ることができた
- (反省点)
- ・ターゲット層の事前リサーチ不足
 - ・ワインボトルの縮小化が検討
 - ・販売の役割分担が曖昧だった

9

活動の様子



10

インターンシップ:水戸まちなかフェスティバル

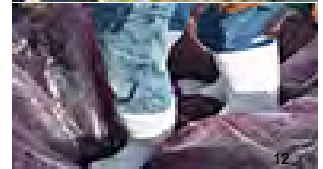
【日時】 2016年9月25日10時～16時

【場所】 水戸中心市街地(国道50号沿い)

- 【活動内容】
- ・ 泉町二丁目商店街振興組合様のブースにて
Domaine MITO株式会社様のカップワイン販売の
サポート
 - ・ Domaine MITO株式会社様が主催したブドウ収穫
ツアーに添乗員として参加

11

活動の様子



12

成果と反省点

〈成果〉

- たくさんのお客様の生の声を聞くことができた
- お客様との会話の中でニーズを把握することができた
- 体験型であることの重要性を再認識できた
- チームの役割分担がうまくできた

多くの成果を得ることができ、目立った反省点はなかった

13

サイト作成

【目的】 プロジェクトチームがどのような活動をし、Domaine MITO株式会社様に関わってきたかを紹介する。

【方法】 プラスデザインズ・カワノベ様にサイトの作成を依頼し、Domaine MITO株式会社様のHPに「学生の活動」のページとして組み込んでいただきました。

【費用】 「女性・若者企画提案チャレンジ支援事業」を活用—事業計画書の提出、プレゼン行い13万5千円の補助金をいただきました。

14

活動を振り返って

- 業務にまぎかに関わり、手元にある商品をいかに活用するかを学ぶことができた。
- チーム内の情報共有がうまくいかなかった場面があった。
- 様々な場面に同行させていただき、貴重な体験が多かった。
- 学生だけでは力不足で実行でき、制限がかかってしまった
- 学外の人との交流を通して社会人としてのマナーを学んだ

15

今後の予定

- 笠間焼プロジェクト
20代から40代のビジネスパーソンをターゲットとしたワインの販売方法を検討中

「いつもよりちょっといいワイン」
を友達や家族と楽しめる販売方法

- サイトの更新



16

お世話になった皆様

- Domaine MITO株式会社 宮本紘太郎様、皆様
- いばらきワイン産業連絡協議会 会長 西村勝男様
- プラスデザインズ・カワノベ 川野辺悦子様

17

ご清聴ありがとうございました。

Domaine MITOチーム

18

1

コミュニケーショントラブル をなくそうプロジェクト ～最終報告～

◆コミュニケーションチーム◆

リーダー：森本真由
副リーダー：森遼香
副リーダー：佐藤宇輝

書記：波崎大知
会計：入江美穂
アドバイザー：猪狩彩夏
アドバイザー：磯貝麻葉

コミュニケーションチーム
2016/12/10

2

〈目次〉

1. 目標設定までの経緯
2. 目標に向けた各ツールの連携
3. これまでの活動
4. 茨城大学生へのアンケート&クイズ
5. インターン
6. リーフレット
7. twitter
8. Web
9. コミュニケーションチームとしての活動を通して
10. お世話になった方々

コミュニケーションチーム
2016/12/10

3

1. 目標設定までの経緯

コミュニケーショントラブルとは？

↓

大学生である私たちにとって身近なコミュニケーションツールは？

LINE twitter メール

↓

それらのツールによるトラブルは？

SNS上での炎上 メールマナーの欠如

↓

大学生のニーズに合うものは？

大学生生活や就活にも使えるメールマナーの周知

コミュニケーションチーム
2016/12/10

4

2. 目標に向けた各ツールの連携

目標：茨城大学の1～3年生に向け、社会でコミュニケーションをとる上でのメールマナーの周知

【Web】

- リーフレット/Twitterから誘導された学生に対し、以下の内容を案内
- 就職活動大学での活動の参考としてもらう
- (コンテンツ内容) ・メールマナーの基礎
- ・メールの送る場合別の例文

【リーフレット】

- 学内で配布
- 注意喚起を目的とし、Webへ誘導
- (内容) ・アンケート結果、クイズ
- ・WebのURL

【Twitter】

- SNSの特徴である拡散機能を活用
- プロジェクト活動の存在を告知し、Webへ誘導
- (内容) ・WebのURL

Webへ誘導

コミュニケーションチーム
2016/12/10

5

3. これまでの活動

(プロジェクトスタート)

6月2日：チームの役職決定

6月10日：構想発表

6月24日：打ち合わせ@茨城大学
- NITコミュニケーションズ株式会社
吉川様

(事前調査)

6月25日
～6月30日：アンケート設計 - 実施対象・方法・内容

7月1日
～7月4日：先生方への相談 - 実施案の具体化

7月5日：アンケート実施

▲中間発表会① (7月15日)

成果・感想等

- メンバーがなかなか集まらないまま構想発表を迎えてしまった。
- 吉川様にアドバイスをいただき、何とか方向性がまとまった。

成果・感想等

- アンケートを作成、配布。約200の回答を得ることができた。
- アンケートの作成が簡単なことではないことを知った。

コミュニケーションチーム
2016/12/10

(取り組みの具体化)

7月19日
～8月19日：成果の手段の検討

8月9日：打ち合わせ@茨城大学
- NITコミュニケーションズ株式会社 吉川様

(インターンシップ)

8月18・19日：内容はスライドNo.14
@NITコミュニケーションズ株式会社

(取り組みの実施)

8月23日：第2回アンケート実施
@社会人に必要なIT・インターネット基礎力

9月1日
～9月30日：リーフレット&Web作成

10月19日：学務からリーフレットの印刷を発注

▲中間発表会② (10月14日)

成果・感想等

- 中間発表の反省点などの話し合い
- 振り返りを行うことで今後につなげることができた。
- 向えるにしても、筋が通った理由づけがないといけない。

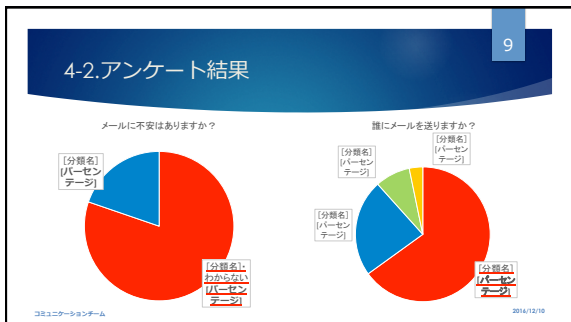
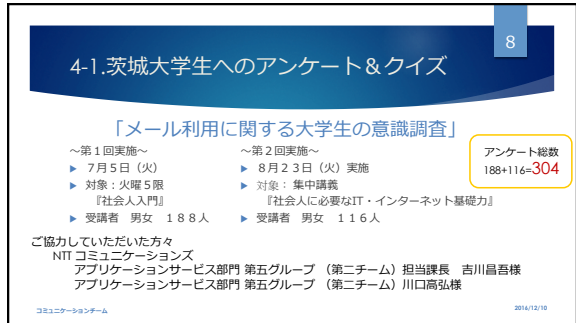
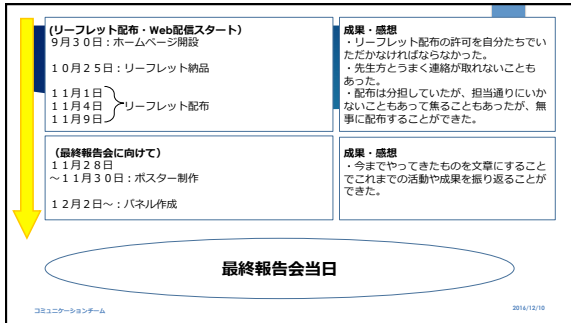
成果・感想等

- Webデザインを学ぶことができた。
- 働いている方のご意見が聞けて、今後キャリアを考えていくうえで参考になった。

成果・感想等

- アンケートで約300もの回答が得られた。
- アドバイザーの職員さんのお力添えもあって、チームオリジナルのリーフレットとWebを作成することができた。
- 鈴木先生、人文学部の学務の方のお力添えにより、無事発注できた。

コミュニケーションチーム
2016/12/10



5. インターンシップ

	1日目(8/18)	担当	内容
8/18~19日の日程で東京・田町グランパークタワーにて実施	13:15	吉川様・川口様	集合 グランパークタワー到着⇒4F受付 (402応接会議室)
	13:15~13:30	吉川様・川口様	オリエンテーション 自己紹介
	13:30~15:30	川口様	会社案内 - NITコミュニケーションズとアプリケーション&コンテンツサービス部の事業について - 「連携性組み」 (概要)
通信業界やNITの事業についての説明	2日目(8/19)		
	9:30~10:30	吉川様・川口様	- グループ課題 - リーフレット/Web等で検索する内容について議論
	10:30~12:00	川口様	- 「周辺業界研究」 (概要)
	12:00~13:00		- 昼食
	13:00~14:00	吉川様	- Webマーケティングの基礎
グループ課題 - 目標を大学生に - メールのマナーやルールをわかりやすく手際な方法で伝える - 設定Web,リーフレット, Twitterのアカウントの作成を決定	14:00~15:30	吉川様・川口様	- グループ課題 - Webでの発表方法, 今後の実施内容, スタジール確認

2014/12/10

6. リーフレット

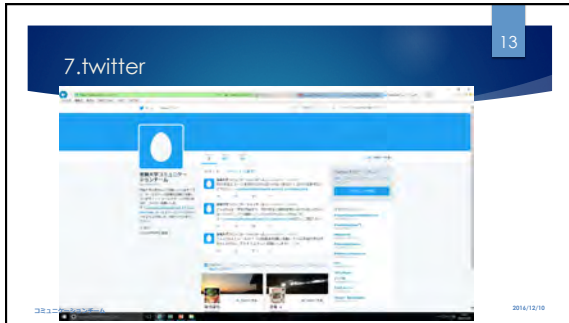
12

- Webにつなげる手段
 - 不安を掻き立てる
 - 全体的に暗いイメージで
 - 不安になる根拠が必要
 - アンケートの結果を提示
 - QRコードにたどり着かせる
 - 読者の不安を文字にする
 - Webが不安の解消になるかも?...と思わせる

Webにアクセスさせるために...
 1) 載せる情報の取捨選択 2) 読者に共感してもらうためのコメント

の内容

2014/12/10



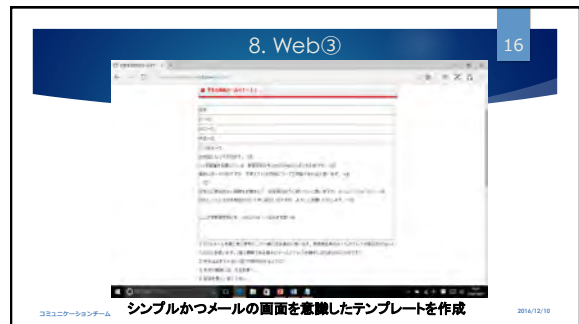
8. Web① 14

目的
Webサイトを立ち上げそこでメールマナーについて発信することで
大学生にメールを送るときのルール、マナーを分かりやすく伝えること

↓

1 アポイント 2 基礎 3 研究室訪問
4 欠席・遅刻 5 提出物忘れ 6 英語のメール
状況別にテンプレートを作成

コミュニケーションチーム 2016/12/10



9.コミュニケーションチームとしての活動を通して① 18

▶ アンケート・リーフレット・Webの作成にあたって

- ▶ 自分たちが必要としている情報を見つける。
 - 自分たちの活動の根拠となるデータを得るには？
 - 質問の聞き方 (単回答・複数回答・自由記述...など)
- ▶ 読者や閲覧者が何を求めているかを考えながら作成する難しさ。
 - 情報の多すぎ・少なすぎ、ずれているものは、
 - 必要なものを必要の人に。
- ▶ 自分たちに知識・技術がないからこそ、教えていただけるありがたさを知った。
 - アドバイザーに作成方法を1から親身に教えていただいた。
 - 先生方や人文学部の学務の方に発注手続きの手順を教えていただいた。
 - お力を借りるということは、そのお時間をいただくということ。

コミュニケーションチーム 2016/12/10

9.コミュニケーションチームとしての活動を通して②

19

- ▶ チームとして
 - リーダーは常に自分のチームにかかわることを把握しておかなければ、連携が取れない。
 - 緊急事態の時に誰かがカバーできるよう準備しておくことが必要。
 - チーム全員がお互いの行動等を認識しておくことが望ましい。
 - 慎重になることも大事だが、思い切って次のステップに進むことも大切。
- ▶ 民間企業の方との協力を通して
 - 誰かに提案・発表するときは、筋が通った理由づけが必要。
 - 数字が一歩取得力がある。
 - メールで連絡を取る際は、内容を簡潔にわかりやすくまとめる。
 - 今後のスケジュールを伝えておく。相互に把握・行動しやすい。
 - 遠方から打ち合わせに来ていただけるありがたさ。

コミュニケーションチーム ● お忙しい中、お時間をいただいている以上、実のある打ち合わせを。

2014/12/10

10.お世話になった方々

20

NTT コミュニケーションズ
アプリケーションサービス部門 第五グループ (第二チーム) 担当課長 吉川昌春様
アプリケーションサービス部門 第五グループ (第二チーム) 川口高弘様
人文学部学務係
波多野様
石川様

ありがとうございました

コミュニケーションチーム

2014/12/10

21

ご清聴ありがとうございました。

コミュニケーションチーム

コミュニケーションチーム

2014/12/10

プロジェクト実習D こみっとフェスティバルチーム

メンバー


リーダー 佐藤李咲 副リーダー 鈴木千尋
 書記 小野瀬莉央 書記 井上知美
 書記 山口紗奈子 会計 塚本莉沙



1

目次

1. チーム紹介
2. こみっとフェスティバルとは？
3. 活動報告
 - ・主な活動
 - ・ボランティア活動への参加
 - ・水戸まちなかフェスティバル
 - ・茨苑祭
 - ・フリーペーパー作成
4. 今後の予定：こみっとフェスティバル
5. 謝辞



2

チーム紹介

- 水戸市役所 市民生活課協働係 橋崎様 沼田様
- 今年で3年目となるプロジェクト。水戸市役所・水戸市内の市民活動団体の方々と協働しながら、「こみっとフェスティバル」というイベントの成功に向けて活動中
- こみっとフェスティバルの成功のために...
 - ・様々な場面での**宣伝活動**
 - ・イベントの運営に携わり、**学生の視点**を活かしてよりよいものに

3

こみっとフェスティバル (こみフェス) とは？

・水戸市で活動する市民活動団体(NPO・ボランティア団体等)が集まり、活動展示やステージ発表の他、相談や体験ができるイベント！

【目的】・市民の方々に市民活動団体の活動を知って身近に感じてもらうこと
 ・団体同士の交流を図ること





4

活動報告 主な活動


6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
29日 水戸フェス会議	20日 第1回 実行委員会	24日 第2回 実行委員会	31日 インタビュー	23日 先進地実地研修	25日 水戸まちなかフェスティバル	25日 第3回 実行委員会	25日 第4回 実行委員会	12日 13日 茨苑祭フリーペーパー配布
6月～11月 茨苑祭 会議			7月～9月 ボランティア活動			6月～11月 フリーペーパー作成		
							1月～2月...メディアでのPR活動(予定)	

5

活動報告 ボランティア活動への参加

【参加の目的】

活動の中で市民活動団体の方々と関わるにあたり、
 私たちが市民活動団体のことを知らないままでは、説得力がない



実際に活動に参加して体感することで、理解を深める
 実行委員会の方々と交流を持つことで、関係性をつくる

6

活動報告 ボランティア活動への参加

【活動】

7月31日 第3回小中学生英語スピーチ大会
(茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ 様)
[内容]会場設営、運営補助



8月21日 歴史館まつり (カブラ)
(水戸こどもの劇場 様)
[内容]子供と一緒に遊ぶ、運営補助



7

活動報告 ボランティア活動への参加

8月25日 老人ホーム訪問

(はつらつサークル 様)
[内容]レクリエーションの参加・補助



9月3日 子ども食堂 (にこにご食堂)

(茨城保健生活協同組合 様)
[内容]活動の様子を見学、実食



8

活動報告 ボランティア活動への参加

【活動の成果】

- ボランティアにも様々な活動があることを知った
- ボランティア活動の現場を肌で感じることで、親子の交流の場となる・生活をより豊かにする等といった、活動の実態・役割を知ることができた
- 実行委員会の方々と交流を持つことができた

9

活動報告 水戸まちなかフェスティバル

【参加の目的】

こみっとフェスティバルの周知・宣伝
活動資金の調達



【活動】

9月25日(日)10:00~16:00

泉町二丁目商店街振興組合様のスペースを一部お借りして出店

【内容】

- ・石に絵を描く体験コーナー
- ・手作り小物の販売
- ・展示やチラシ配布によるこみフェスの宣伝

10

活動報告 水戸まちなかフェスティバル

【活動の成果】

- 体験コーナー: 126名の参加者。物販コーナーも盛況
- 昨年度の反省点の改善

昨年度→バルーンアートを行い盛況ぶりを見せるも、運営に精一杯で本来の目的である**宣伝が疎か**に...

今年度→作ったものを入れる袋に、**こみフェスに関する手作りチラシ**を入れて渡す
その際、こみフェスに関して説明をする

↓
周知活動ができた



11

活動報告 茨苑祭 (茨城大学 学園祭)

【参加の目的】

こみっとフェスティバルの周知・宣伝



【活動】

11月12日(土)、13日(日)9:30~15:30

茨城大学人文講義棟23番教室

【内容】

- 1日目 **連綿・折り紙体験** (協力: はつらつサークル 様)
- 2日目 **カブラ(積み木)体験** (協力: 水戸こどもの劇場 様)
- 両日 展示、チラシ・フリーペーパーの配布



12

活動報告 茨苑祭（茨城大学 学園祭）

【活動の成果】

- 2日間で**121名**の来場者
- 市民活動団体・来場者の方とはもちろん、展示で参加したプロジェクト実習の他チームとも交流をするいい機会となった
- 今年度の新しい試みである**フリーペーパー**を配布するなど、来場者の方々にボランティアをより身近に感じてもらえるような働きかけを行うことができた

一方で・・・

企画自体は**昨年度の活動と一緒**。新しいことに挑戦できなかったという反省点も

13

活動報告 フリーペーパー作成

【活動の背景】

「**そもそも水戸市に市民活動団体があることを知らない**」という茨大生の声

意識調査(アンケート)を実施し、現状を把握

- ・市民活動団体の存在を知ってもらうこと
- ・少しでもボランティア活動に興味を持ってもらうこと

を目標として、フリーペーパーを作成

14

活動報告 フリーペーパー作成

【意識調査】

調査対象者：茨城大学の学生294名

実施日：6月21日(火)5限

7月1日(月)3限

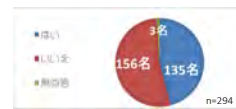
15

活動報告 フリーペーパー作成

【結果】

あなたは市民活動団体(ボランティア団体、NPO法人等)が水戸市にあることを知っていますか？

市民活動団体に参加することに興味はありますか？



16

活動報告 フリーペーパー作成

【結果】

市民活動団体について知りたいこと・悩んでいることをご自由にお書き下さい。

- ・参加するための手続きは何か必要ですか
- ・どのくらいの頻度で活動していますか
- ・サイト名を知りたい
- ・参加したいが、時間がかかるので、大変

17

活動報告 フリーペーパー作成

【活動の成果】

- 意識調査で得た結果をもとに、これまでの活動の経験を活かして作成することができた
- 橋崎様、沼田様と打ち合わせを重ねながら、よりよいものになるよう取り組むことができた
- 当初の完成目標として挙げていた茨苑祭までに無事完成。来場者の方々に配布することができた

今後は、
年明けを目前に茨城大学内で配布、**学生への周知活動**を進めていく予定

18

まとめ

- ・客観的に自己分析→フィードバック
- ・継続の力→計画・日程調整のノウハウ
- ・行政の視点・市民の視点・学生の視点

19

今後の予定
最終目標:こみっとフェスティバル

こみっとフェスティバル2017

つなげよう 広げよう こみっとの輪
ボランティアをわかってください。あなたのために！

日時:2017年 2月25日(土)
10:00~16:00

会場:イオンモール水戸内原
1Fメインコート 2Fイオンホール



20

謝辞

- 水戸市市民協働部 市民生活課 協働係 橋崎様・沼田様・皆さま
- 茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ 谷萩様・皆さま
- 水戸こどもの劇場 榎塚様・皆さま
- はつらつサークル 平沼様・皆さま
- 茨城保健生活協同組合 塙様・皆さま
- 水戸市環境保全会議 高橋様・皆さま
- M・I・T・O21 穂崎様・皆さま
- 虹の会 稲田様・皆さま
- ひと・まちねっとわーく 栗田様・皆さま
- 朗読ボランティア「コスモス」 咩野様・皆さま
- ぼるーん・レインボー 馬場様・皆さま
- 手話サークル さくらんぼ 青木様・皆さま
- 泉町2丁目商店街振興組合 宮本様・皆さま
- その他、私たちの活動に関わってくださったすべての方々

誠に
ありがとうございました！！

21



ご清聴ありがとうございました

22

農業高校におけるプロジェクト学習 ～里川カボチャを事例に～

茨城県立水戸農業高等学校 食品化学科 新堀俊博

1

県内の農業関連高校の所在地



2

農業関連高校における農業を学べる学科

学校名	設置学科
大子清流	森林科学科・総合学科(農業系列) 農業科・畜産科・園芸科・ 生活科学科・農業土木科・食品化学科・農業経済科
水戸農業	定時制農業科
銚田農業	農業科・食品技術科・流通情報科
石岡第一	園芸科・造園科
真壁	農業科・環境緑地科・食品科学科
坂東総合	総合学科(生物資源系列・環境デザイン系列)
江戸崎総合	総合学科(グリーンテクノ系列)

※総合学科は、2年生から農業に関する科目を学んでいきます

3

文部科学省 高等学校学習指導要領 (平成21年3月告示)

各教科	各教科に属する科目
農業	農業と環境・課題研究・総合実習・農業情報処理 作物・野菜・果樹・草花・畜産・農業経営・農業機械・ 食品製造・食品科学・微生物利用・ 植物バイオテクノロジー・動物バイオテクノロジー・ 農業経済・食品流通・ 森林科学・森林経営・林産物利用・ 農業土木設計・農業土木施工・水循環・ 造園計画・造園技術・環境緑化材料・測量・ 生物活用・グリーンライフ

※上記以外でも、各高校において必要と判断した科目については、「学校設定科目」として実施

4

高等学校学習指導要領解説 農業編(平成22年6月)

○第2節 教科の目標

- 第一に、目標をもった意欲的な学習を通して、農業に関する知識、技術の定着を図り、将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本を身に付けさせること。
- 第二に、学習に取り組む主体的な態度や合理的な思考及び倫理的な姿勢を身に付けた、将来の地域を支える人間性豊かな職業人を育成すること。
- 第三に、農林業の多様化・高度化・精密化、安全な食料の生産と供給、地球規模での環境保全及び地域資源の活用など、社会の変化や農業教育の広領域化へ対応すること。

上記の三つの目標(視点)を基本とし、各教科を通して横断的な展開を図る。

5

課題解決(プロジェクト)学習について

○プロジェクト学習とは

生徒が主体的に学習する学習方法 教員は助言者

○プロジェクト学習の流れ

課題の設定→計画の立案→実施→反省・評価→改善

○プロジェクト学習で得られる教育的効果

学習に対する面白さ・楽しさを実感
 チーム等のグループの仲間意識の向上
 企画力・実践力の育成・向上
 “わかる”の実感

6

里川カボチャの商品開発に携わる経緯

○平成26年6月

株式会社JTB関東法人営業水戸支店
水戸誘客促進・活性化事業担当 西島佳子様

○平成26年7月

茨城大学 人文学部 鈴木 敦先生

食品化学科食品科学部の活動の記録をお聞きください！

7

きっかけ

- 魅力のある常陸太田市里美地区を多くの人々に知っていただきたい。
- 商品開発に興味があった。
- 珍しい里川カボチャに興味を持った。

1



2

実習目標

- 1年次・・・里川カボチャの栽培環境を含め、里川カボチャの特徴を調査する。
- 2年次・・・1年生の時に得た里川カボチャの特徴を活かしたスイーツを提案する。
- 3年次・・・提案したスイーツについて調査・改善をし、提供の機会を増やす。

3

これまでに行ってきたこと ～1年次～

- 茨城大学の学生とのミーティング。
- 里川カボチャの栽培地へ行き合宿を行い現地の人に説明を受けた。
- 合宿で得た情報を元に、カボチャと合うスイーツの試作を行った。
- 水農祭・茨城大学の茨苑祭でのスイーツの販売。
- プロジェクト実習B活動報告会での発表。

4

～2年次～

- 茨城大学の学生とのミーティング。
- 里川カボチャの収穫。
- 茨城大学のプロジェクトとの連携。
- 水農祭・茨城大学の茨苑祭でのスイーツの販売。
- 第1回スイーツコンテストへの出場。
- 水戸まちなかフェスティバルでの販売。
- 泉美Caféでの販売。
- プロジェクト実習B活動報告会での発表。

5

～3年次～

- 茨城大学の学生たちとのミーティング。
- 里川カボチャの大福の作成&試食会。
- 里川かぼちゃのカステラをさとみ・あいチームと作成し、ときわ祭に出品。
- 最後の水農祭に、里川かぼちゃのパイを出品。
- 茨城大学で行われる活動報告会で展示するポスターセッションの作成。

6

研究内容

①茨城大学の方とのミーティング～販売まで

平成26年 8月4日	茨城大学の鈴木教授、学生さんたちとの打ち合わせ
10月12日	試食会(タルト・パイ・けんぴ・スコーン・クッキー・羊羹)
11月 8日・9日	水農祭・茨苑祭でのタルトの販売

7

ミーティングの様子



里川カボチャの収穫



8

研究内容

①茨城大学の方とのミーティング～販売まで

平成26年 8月4日	茨城大学の鈴木教授、学生さんたちとの打ち合わせ
10月12日	試食会(タルト・パイ・けんぴ・スコーン・クッキー・羊羹)
11月 8日・9日	水農祭・茨苑祭でのタルトの販売

9

試食会



10

研究内容

①茨城大学の方とのミーティング～販売まで

平成26年 8月4日	茨城大学の鈴木教授、学生さんたちとの打ち合わせ
10月12日	試食会(タルト・パイ・けんぴ・スコーン・クッキー・羊羹)
11月 8日・9日	水農祭・茨苑祭でのタルトの販売

11

水農祭・茨苑祭で販売したカボチャのタルト



12

②里川カボチャをいろいろな方に、味
わっていただく&これまでの活動報告

平成27年 9月23日	泉美Caféでのジェラート・クッキーの 販売
10月23日	水戸まちなかフェスティバルでのス ウィートパン・プキンの販売
11月 14日・15日	水農祭・茨苑祭でのタルト・マドレー ヌの販売
12月16日	第1回スイーツコンテスト出場 里川カボチャのモンブランの出品
平成28年 1月30日	「2015年度プロジェクト実習B活動 報告会」での発表

13

泉美Caféに提供した
カボチャのジェラートとクッキー



14

②里川カボチャをいろいろな方に、味
わっていただく&これまでの活動報告

平成27年 9月23日	泉美Caféでのジェラート・クッキーの 販売
10月23日	水戸まちなかフェスティバルでのス ウィートパン・プキンの販売
11月 14日・15日	水農祭・茨苑祭でのタルト・マドレー ヌの販売
12月16日	第1回スイーツコンテスト出場 里川カボチャのモンブランの出品
平成28年 1月30日	「2015年度プロジェクト実習B活動 報告会」での発表

15

水戸まちなかフェスティバル
で販売した
プキン スウィートパン



16

②里川カボチャをいろいろな方に、味
わっていただく&これまでの活動報告

平成27年 9月23日	泉美Caféでのジェラート・クッキーの 販売
10月23日	水戸まちなかフェスティバルでのス ウィートパン・プキンの販売
11月 14日・15日	水農祭・茨苑祭でのタルト・マドレー ヌの販売
12月16日	第1回スイーツコンテスト出場 里川カボチャのモンブランの出品
平成28年 1月30日	「2015年度プロジェクト実習B活動 報告会」での発表

17

水農祭・茨苑祭で販売した
カボチャのタルトとマドレーヌ



18

②里川カボチャをいろいろな方に、味
わっていただく&これまでの活動報告

平成27年 9月23日	泉美Caféでのジェラート・クッキーの 販売
10月23日	水戸まちなかフェスティバルでのス ウィートパンプキンの販売
11月 14日・15日	水農祭・茨苑祭でのタルト・マドレー ヌの販売
12月16日	第1回スイーツコンテスト出場 里川カボチャのモンブランの出品
平成28年 1月30日	「2015年度プロジェクト実習B活動 報告会」での発表

19

スイーツコンテストに
出品したカボチャのモンブラン



20

②里川カボチャをいろいろな方に、味
わっていただく&これまでの活動報告

平成27年 9月23日	泉美Caféでのジェラート・クッキーの 販売
10月23日	水戸まちなかフェスティバルでのス ウィートパンプキンの販売
11月 14日・15日	水農祭・茨苑祭でのタルト・マドレー ヌの販売
12月16日	第1回スイーツコンテスト出場 里川カボチャのモンブランの出品
平成28年 1月30日	「2015年度プロジェクト実習B活動 報告会」での発表

21

合宿の様子



プロジェクト実習B
活動報告会



22

プロジェクト実習B活動報告会での発表の様子と
試食していただいた
カボチャのシュークリームとマドレーヌ



23

6月29日
茨城大学の方とのミーティング

10月12日
大福の作成&試食会

24

11月19, 20日

水農祭

10月21日

茨城大学の方とのカステラの作成

10月22, 23日

ときわ祭

25

まとめ・考察

・どのスイーツもまだまだ改善すべき点があると感じた。

・味や見た目だけではなく、商品として大切な価格やパッケージなどにも気を使い、常陸太田市里美地区でお客さんに販売しても恥ずかしくないものを作っていきたい。

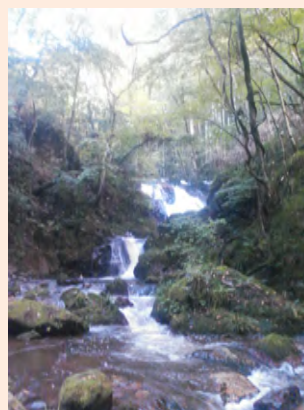
26

まとめ・考察

・里川カボチャのスイーツを作っていく毎に特徴を理解し、良いスイーツが作れるようになった。

・最初から成功してしまうよりも、失敗を積み重ねたからこそ、より多くのことを学べた。

27



私たちの活動を通して少しでも常陸太田市里美地区をより多くの人々に知っていただけたら嬉しいです。

28

2017年度
プロジェクト実習のご紹介

プロジェクト実習担当教員 神田大吾
daigo.kanda.8139@vc.ibaraki.ac.jp

1

現時点で既にプロジェクト課題を戴いている

地域・組織様

- (1) 常陸太田市里美地区 様
- (2) 茨城キリスト教大学 様
- (3) 泉町二丁目商店街振興組合 様
- (4) Domaine MITO株式会社 様
- (5) 水戸市役所 様

2

プロジェクト実習
養成すべきスキル

- (A)課題分析・問題解決の手法 [PJ実習内対応済]
- (B)ネット利用のルールとマナー
- (C)読解力・時事知識
- (D)フォーマルなメールならびに文章作成能力
- (E)単なるPPT操作法に留まらないプレゼンの技法
- (F)掲示物・冊子等を編集作成するための基礎知識
(PCソフトの操作法を含む)
- (G)効果的な動画撮影ならびに編集の基本技術

など 3

2017年度開講決定

プロジェクト実習・補強科目群

- (1)情報活用技術論(2014～) ……(B)(D)
* .comマスター(BASIC)資格 対応
<http://www.com-master.jp/>
- (2)読解力・時事知識養成講座…(C)
* 語彙・読解力検定(2級)資格 対応
<http://www.goi-dokkai.jp/>
- (3)プレゼンカ養成講座 ……(E) 4

ご清聴、感謝申し上げます

5